

第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 のためのアンケート結果報告書 《概要版》

第1	調査の概要	2
第2	調査結果	3
1	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3
(1)	生活について	3
(2)	外出について	7
(3)	生きがい・地域活動について	9
(4)	健康とフレイル対策について	12
(5)	認知症について	17
2	在宅介護実態調査	20
(1)	要介護認定者の状況について	20
(2)	介護保険サービスについて	21
(3)	高齢者施策について	24
(4)	これからの介護や在宅医療に関する希望について	26
(5)	介護保険制度について	29
(6)	認知症について	32
(7)	介護者について	34
3	介護支援専門員調査	39
(1)	ケアプラン	39
(2)	業務全般	41
4	介護サービス提供事業者調査	43
(1)	サービス提供	43
(2)	事業の運営状況	44

令和8年3月

第 1 調査の概要

■ 調査の目的

本調査は、第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定にあたって、対象となる住民の健康状態や生活習慣、介護保険サービス、保健福祉サービスの利用状況やニーズ等を把握するとともに、市内の介護支援専門員や介護サービス事業者からも課題やニーズを把握し、基礎資料とすることを目的とします。

■ 調査方法等

調査の種類	調査対象者	抽出方法	調査基準日	調査期間	調査方法
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	要介護1～5以外の65歳以上の人	無作為	令和7年 12月1日	令和7年 12月10日～ 26日	配布：郵送 回収：郵送 およびWeb
②在宅介護実態調査	要介護1～5の人（施設・居住系サービス利用者を除く）	全数			
③介護支援専門員調査	市内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員	全数			
④介護サービス提供事業者調査	市内のサービス提供事業者	全数			

■ 回収結果

調査票の種類	配布数	回収数			回収率	有効回答数	有効回答率
		郵送	Web	合計			
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,117	79	1,196	59.8%	1,184	59.2%
②在宅介護実態調査	800	324	48	372	46.5%	364	45.5%
③介護支援専門員実態調査	24	19	2	21	87.5%	21	87.5%
④介護サービス提供事業者調査	15	6	8	14	93.3%	14	93.3%

■ 調査・分析にあたって

- 表中のn（Number of Caseの略）は回答者数を示しています。
- 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。そのため、回答率の合計が100%にならない場合があります。
- 調査項目については、令和4年に実施した調査と比較分析をしました。図表中「第9期」とあるのは令和4年の調査、「第10期」とあるのは今回の調査を指します。

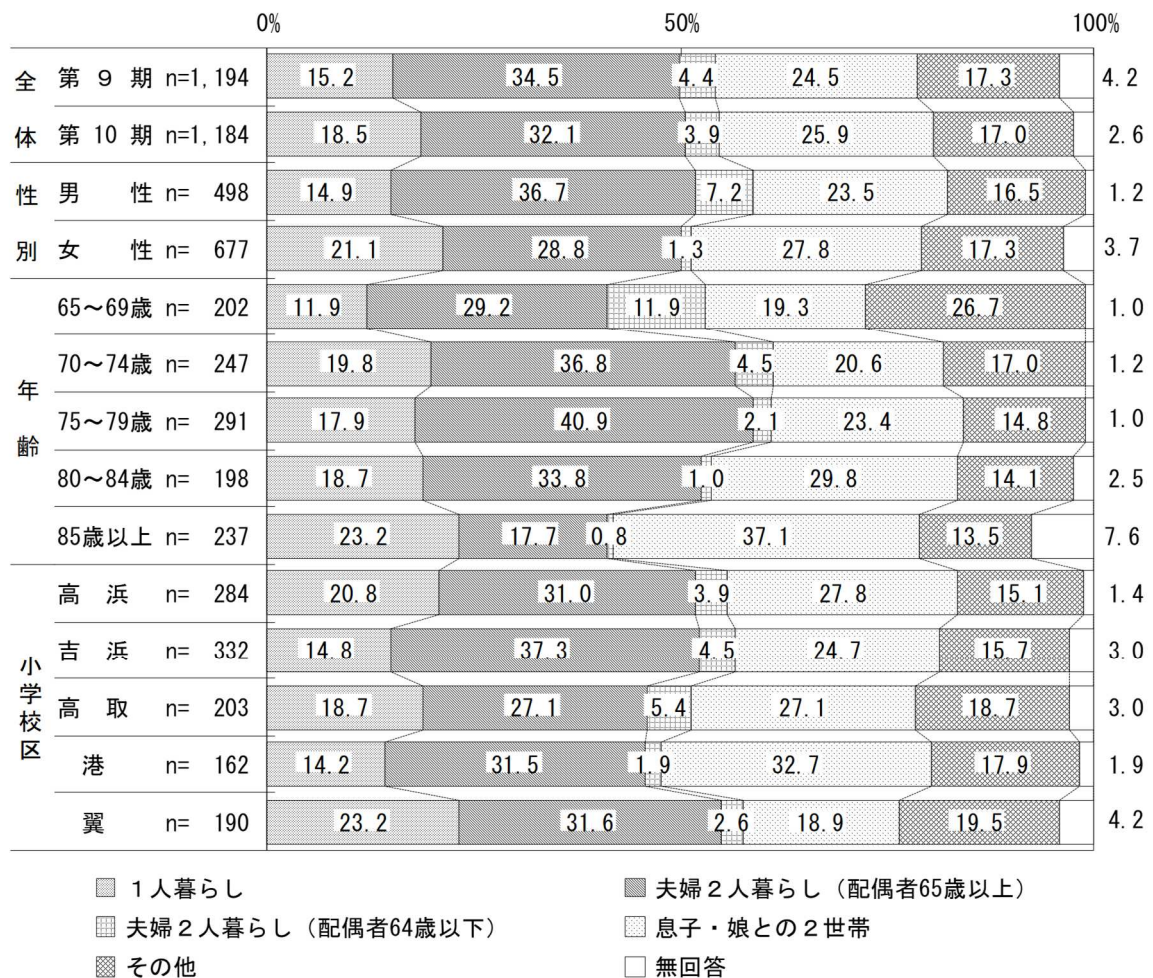
第2 調査結果

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

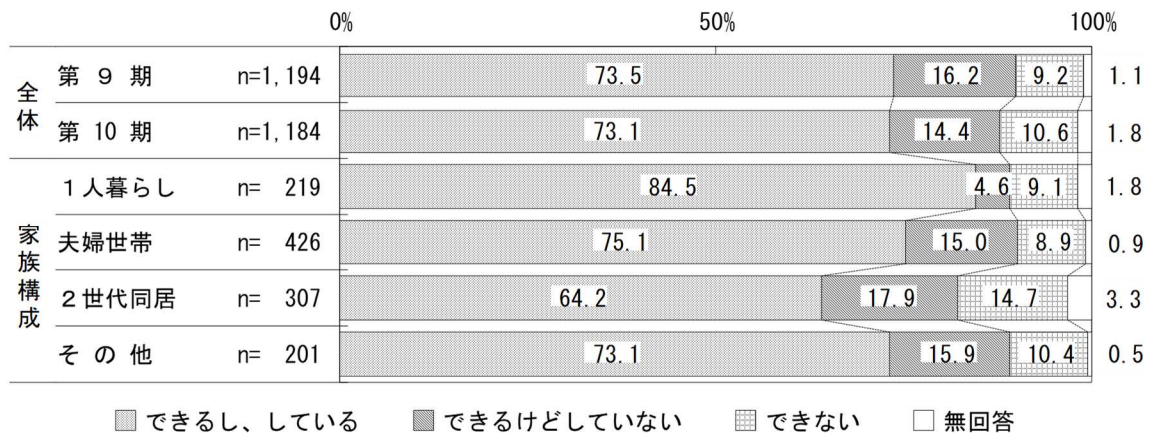
(1) 生活について

- ▶ 家族構成をみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(32.1%) および「1人暮らし」(18.5%) が50%以上を占めています。第9期の調査に比べ「1人暮らし」が3.3ポイント上昇しています(図表1)。
- ▶ 1人暮らしで、買い物を自分でしていない(「できるけどしていない」+「できない」)人は13.7%、食事の用意を自分でしていない人は12.4%あり、買い物をしているのは「別居の家族」、食事の用意は「配食サービス」が多くなっています(図表2～5)。
- ▶ 1人暮らしでは、日常生活で家族以外の誰かに手助けしてもらった経験がある人が32.4%あります。手助けしてもらっていること・もらいたいこととしては、「通院」が44.2%と最も高く、次いで「買い物」「高い所の作業(蛍光灯の取替など)」「掃除」も20%を超えています(図表6・7)。

図表1 家族構成



図表2 買い物をしているか

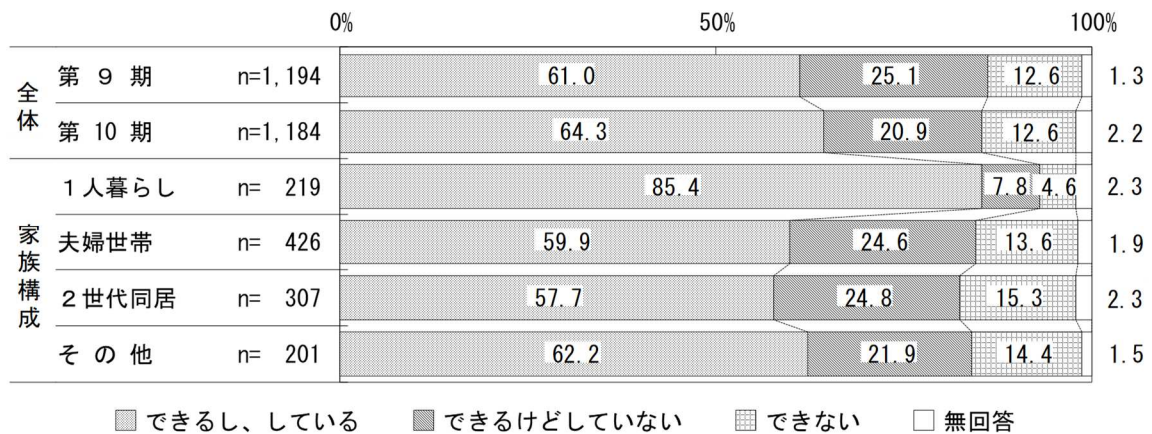


図表3 買い物は誰がしているか（「できるけどしていない」または「できない」のみ）

単位：％

区 分		n	同居の家族	別居の家族	配達を依頼	その他	無回答
全 体		297	75.8	10.1	2.0	4.7	7.4
家族構成	1人暮らし	30	3.3	50.0	3.3	23.3	20.0
	夫婦世帯	102	83.3	5.9	2.0	2.0	6.9
	2世代同居	100	86.0	6.0	1.0	3.0	4.0
	その他	53	83.0	5.7	1.9	3.8	5.7

図表4 食事の用意をしているか

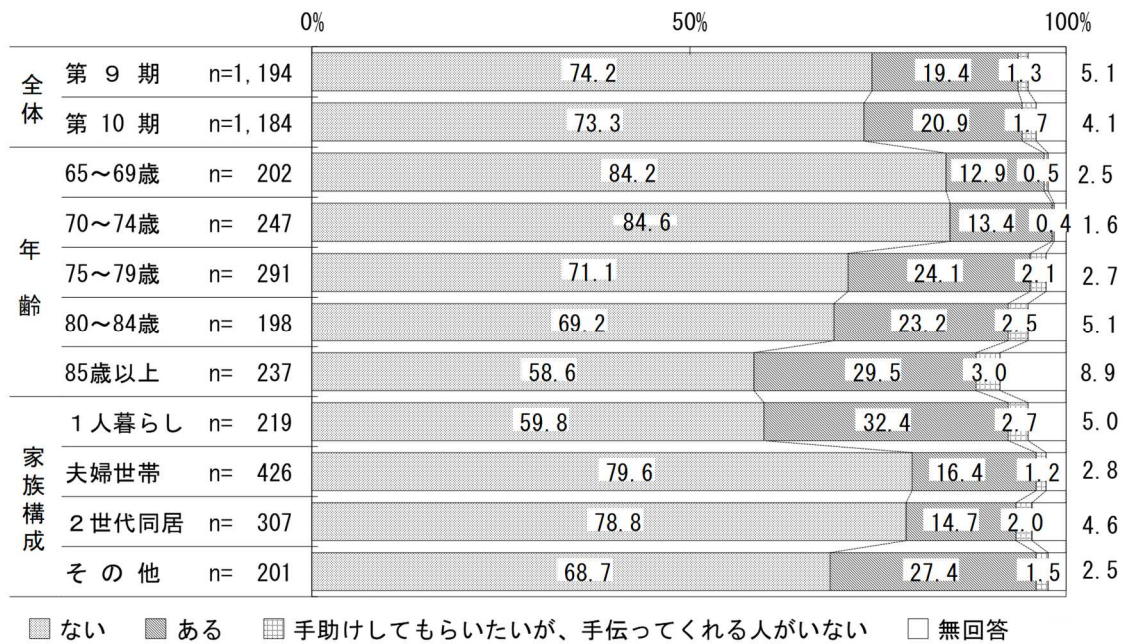


図表5 食事の用意は誰がしているか（「できるけどしていない」または「できない」のみ）

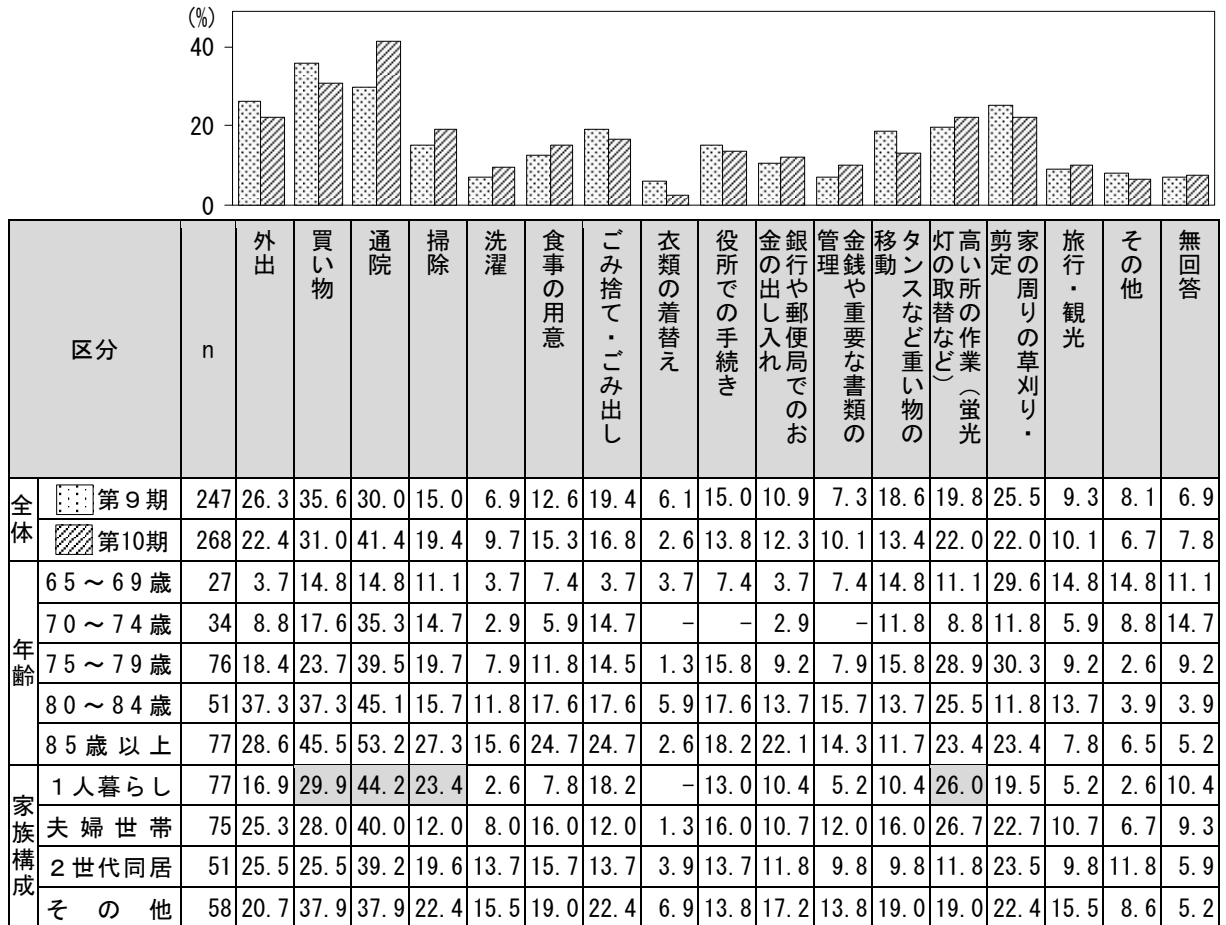
単位：％

区 分		n	同居の家族	別居の家族	配食サービス	その他	無回答
全 体		397	85.1	2.5	4.3	3.8	4.3
家族構成	1人暮らし	27	-	7.4	48.1	29.6	14.8
	夫婦世帯	163	90.8	3.1	0.6	1.8	3.7
	2世代同居	123	92.7	-	2.4	1.6	3.3
	その他	73	91.8	2.7	-	2.7	2.7

図表6 誰かに手助けしてもらったことはあるか

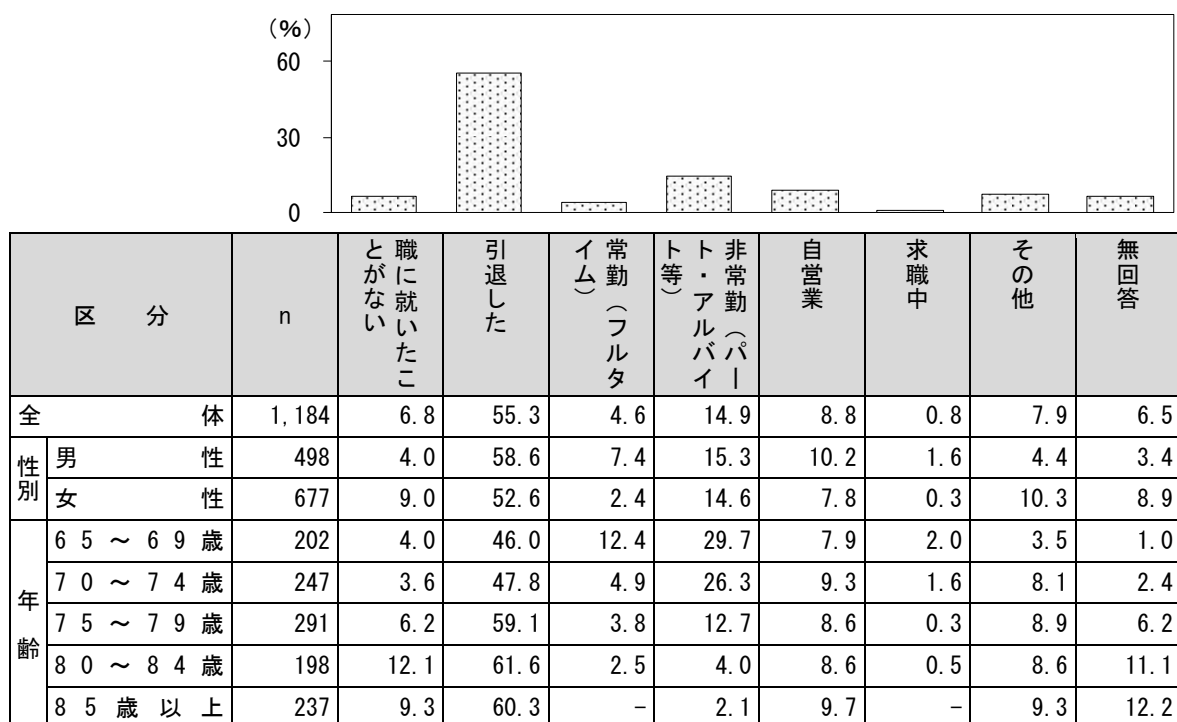


図表7 手助けしてもらっていること・もらいたいこと（複数回答）

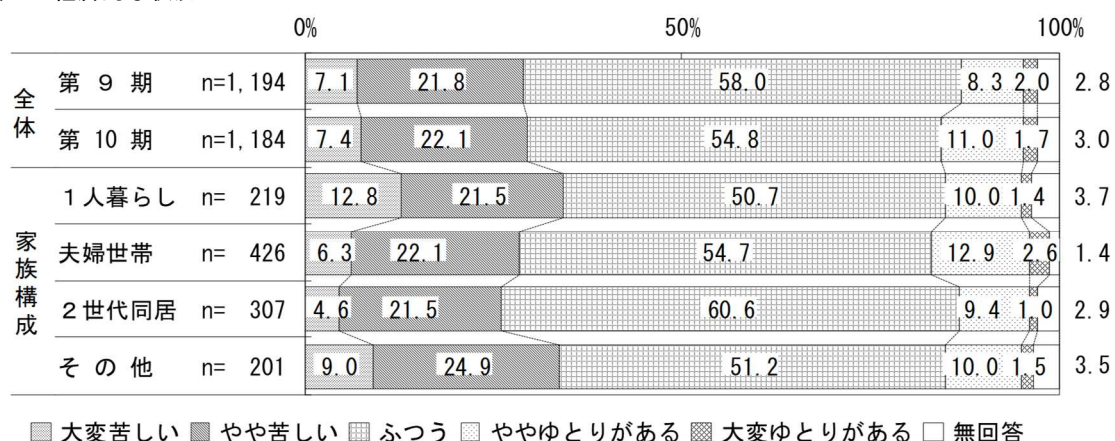


- ▶就労状態は、「引退した」が55.3%と最も高くなっていますが、「常勤（フルタイム）」、「非常勤（パート・アルバイト等）」および「自営業」を合わせると28.3%となります。
- 年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい就労している人の率は低下しますが、85歳以上でも「自営業」が9.7%、「非常勤（パート・アルバイト等）」が2.1%あります（図表8）。
- ▶現在の暮らしの状況は、「ふつう」が54.8%と最も高く、次いで「やや苦しい」が22.1%などとなっています。「大変苦しい」（7.4%）と「やや苦しい」の合計《苦しい》は29.5%、「大変ゆとりがある」（1.7%）と「ややゆとりがある」（11.0%）の合計《ゆとりがある》は12.7%です。家族構成別にみると、1人暮らしでは《苦しい》が34.3%となっています（図表9）。

図表8 就労状態（複数回答）



図表9 経済的な状況



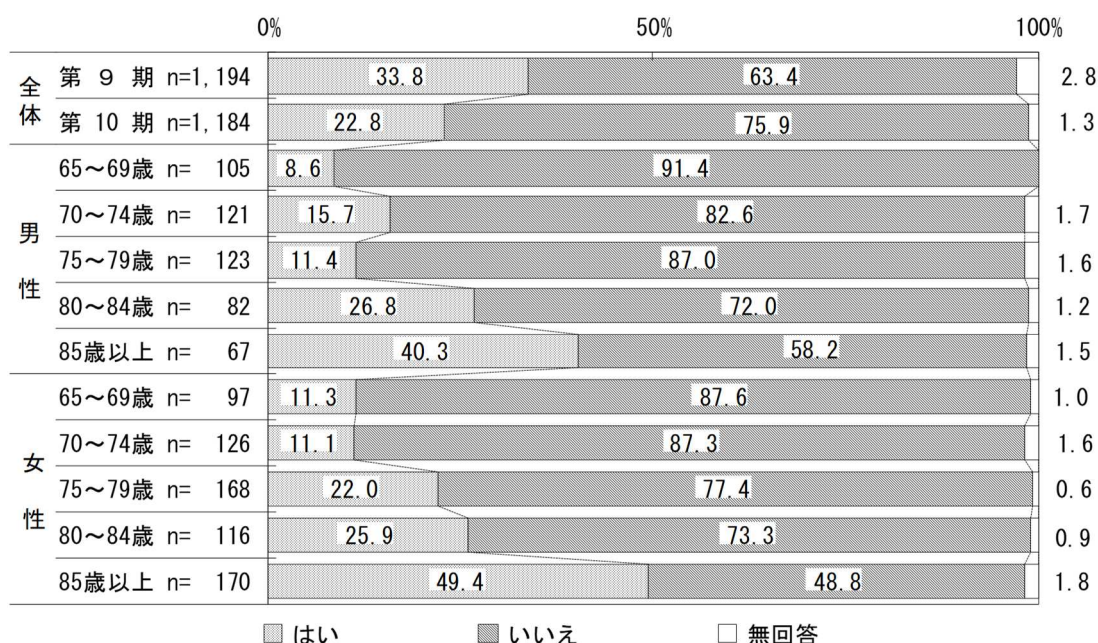
(2) 外出について

▶外出を控えている人の割合は第9期の調査に比べ10ポイント以上低下しています。低下した要因は新型コロナウイルス感染症の流行が収まったことが大きく影響していると考えられます（図表10）。

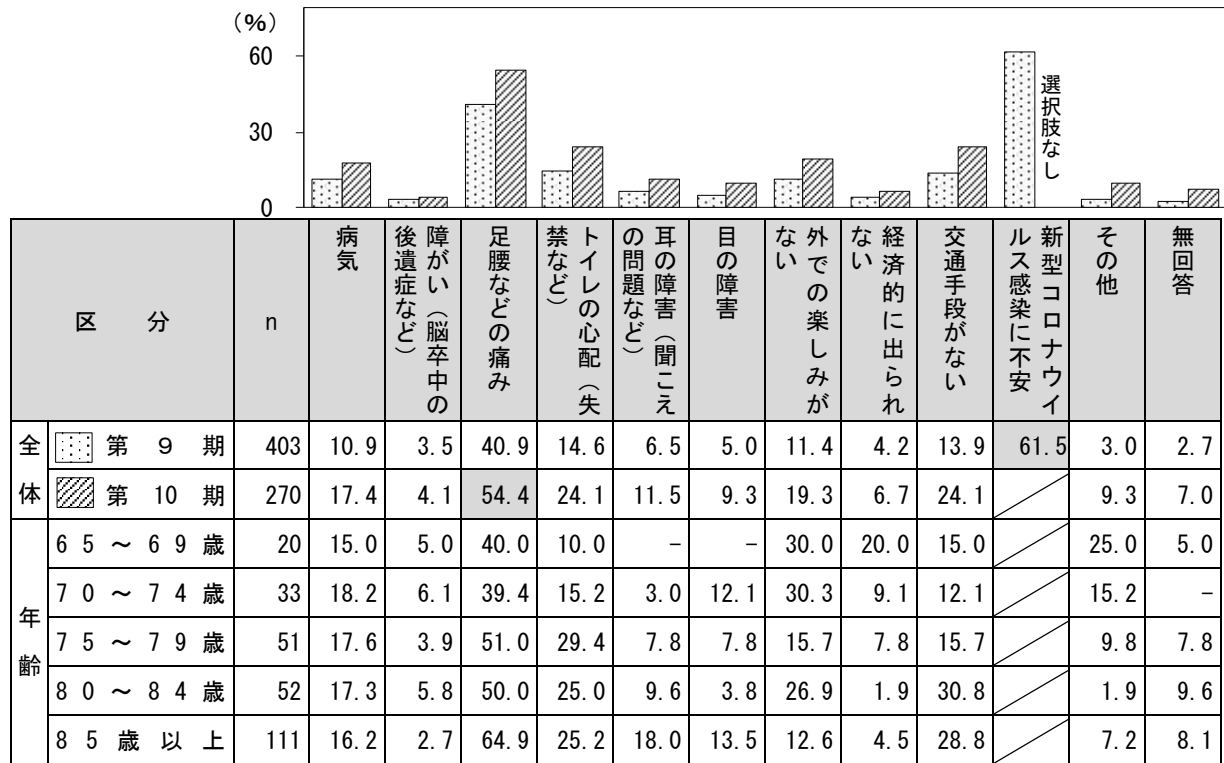
▶外出を控える理由は、「足腰などの痛み」が54.4%と突出して高くなっています。次いで、「トイレの心配」および「交通手段がない」が24.1%、「外での楽しみがない」が19.3%などとなっています。なお、今回は選択肢を設けていませんが、第9期は「新型コロナウイルス感染に不安」が最も高く60%以上を占めていました（図表11）。

▶外出する際の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が57.2%と最も高く、85歳以上でも19.4%あります（図表12）。

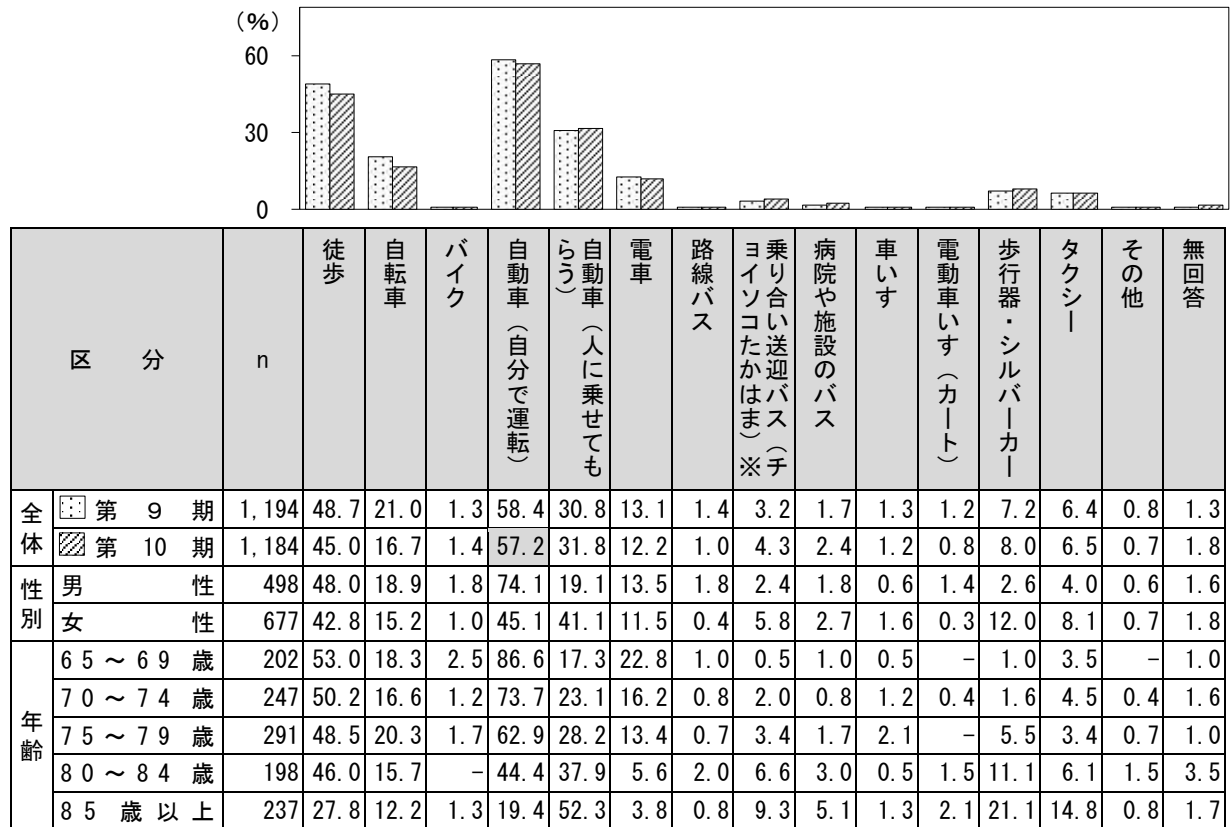
図表10 外出を控えているか



図表 11 外出を控えている理由（外出を控えているか「はい」のみ／複数回答）



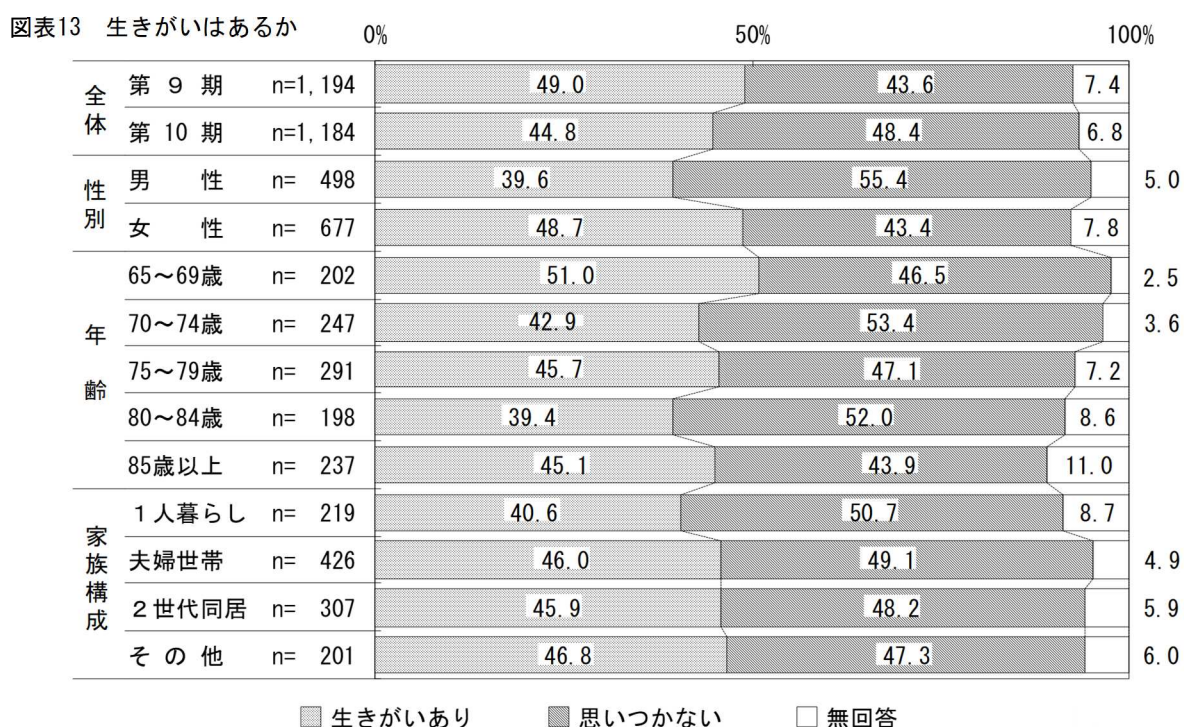
図表12 外出する際の移動手段（複数回答）



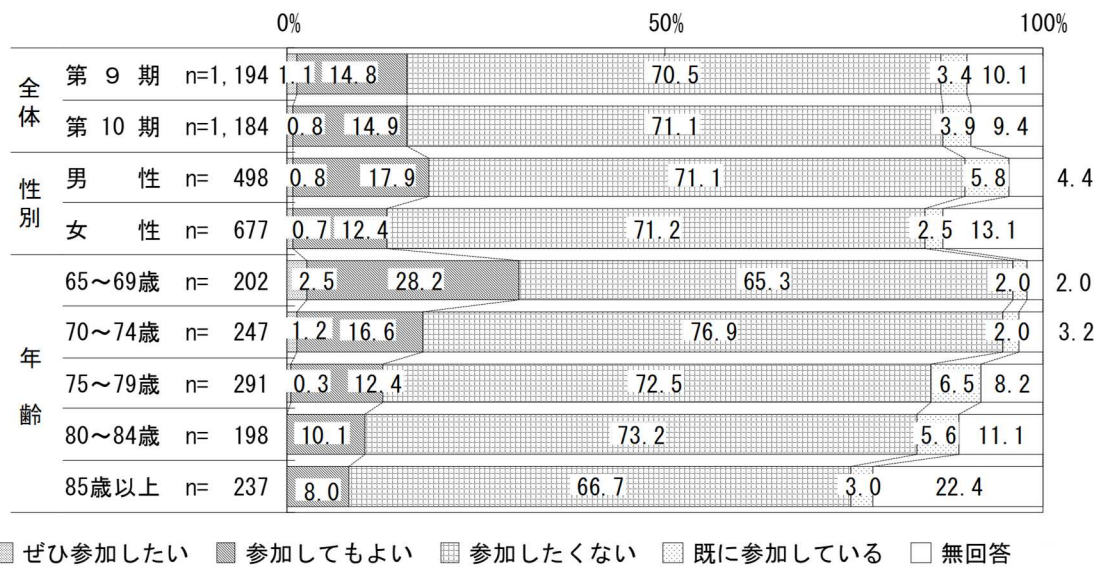
※第9期の選択肢は「市内循環バス（いきいき号）」

(3) 生きがい・地域活動について

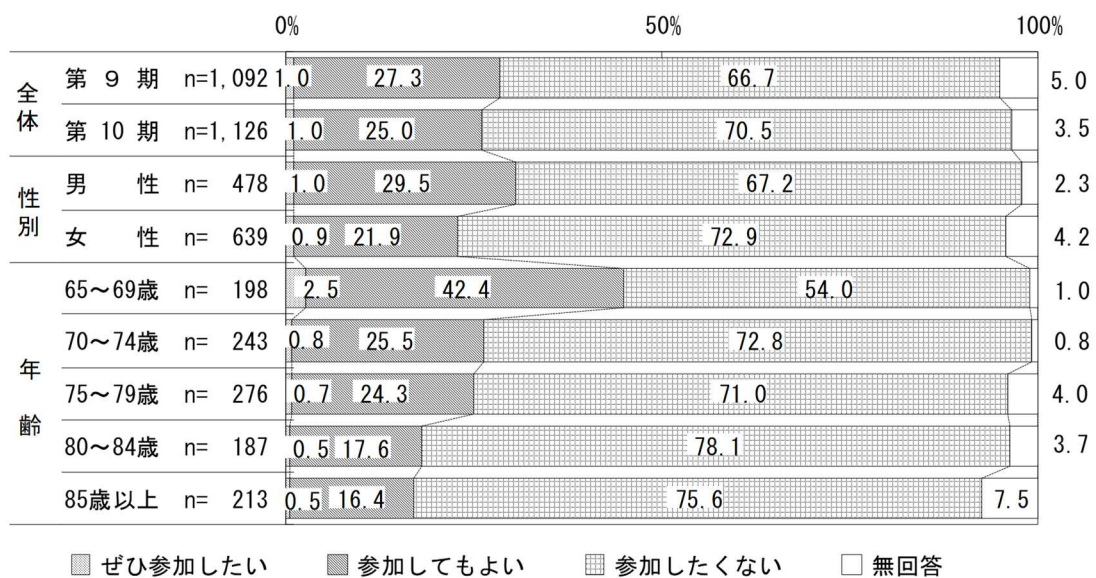
- ▶「生きがいあり」は44.8%で、第9期に比べ4ポイント以上低下しています。「生きがいあり」を属性別にみると、性別では女性に比べ男性が低く9ポイント以上の差があります。家族構成別では「1人暮らし」が他の世帯類型に比べ5ポイント以上低くなっています（図表13）。
- ▶地域活動の担い手としての参加意向（「ぜひ参加したい」＋「参加してもよい」＋「既に参加している」）は、19.6%です。女性に比べ男性の意向が高く8.9ポイントの差があります（図表14）。
- ▶高浜市いきいき健康マイレージを活用したボランティア活動等への参加意向（「ぜひ参加したい」＋「参加してもよい」）は26.0%あります（図表15）。
- ▶「まぜこぜの居場所」の認知度（「すでに参加している」＋「知っているが参加していない」）は21.5%で（図表16）、未参加の人の参加意向（「ぜひ参加したい」＋「友だちなどが一緒なら参加したい」＋「時間があれば参加したい」＋「きっかけがあれば参加したい」）は49.3%です。また、担い手としての参加意向は34.0%です（図表17）。
- ▶「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか」という幸福感の平均点数は6.71点で、第9期に比べ0.16点低下しています。属性別にみると、女性（6.93点）に対し男性（6.43点）が低く、同居世帯（2世代同居（6.96点）、夫婦世帯（6.79点））に対し1人暮らし（6.26点）は低くなっています（図表18）。



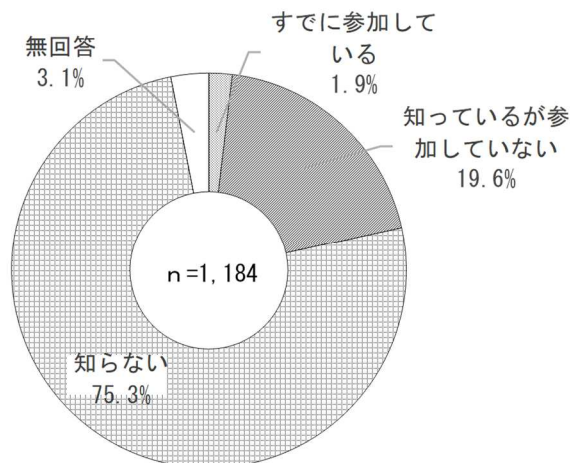
図表14 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向<企画・運営（お世話役）として>



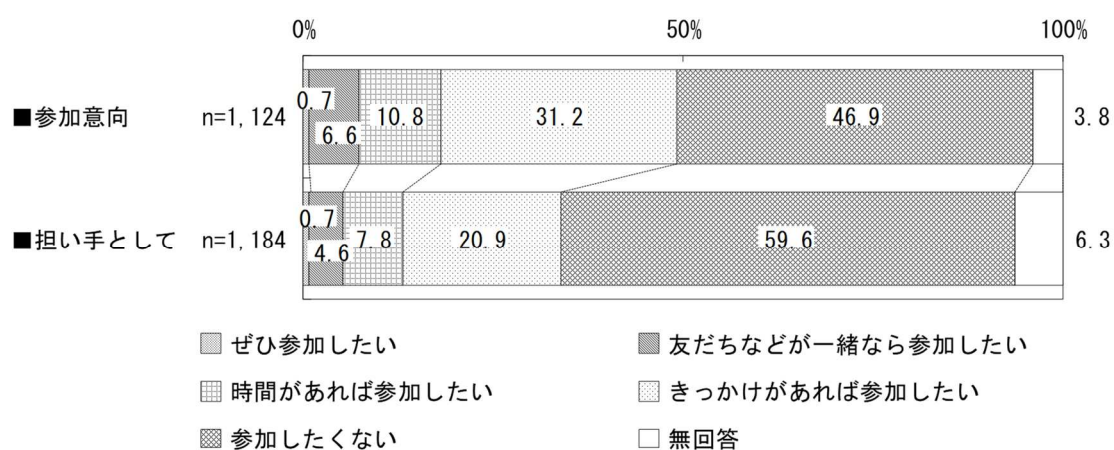
図表15 高浜市いきいき健康マイレージを活用してボランティア活動に参加したいか



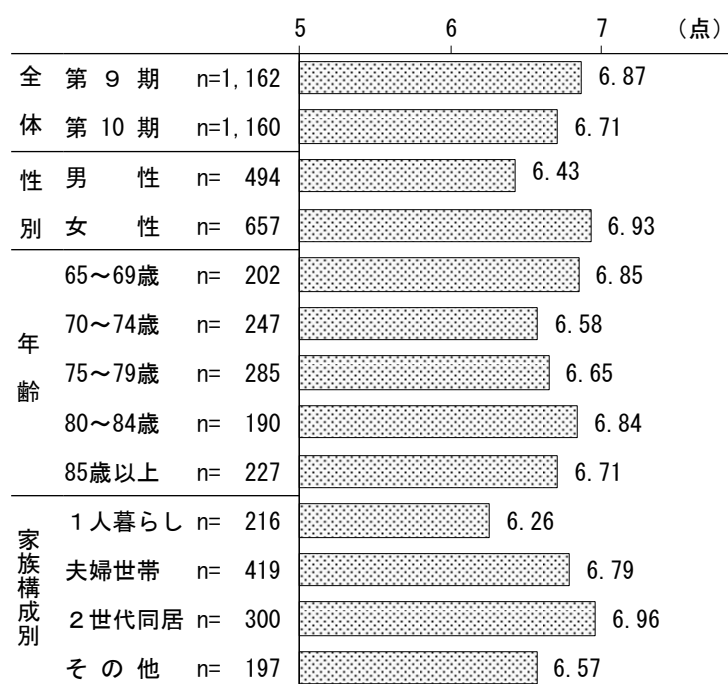
図表16 「まぜこぜの居場所」の認知度



図表17 「まぜこぜの居場所」の参加意向



図表18 幸福感（平均点）



(4) 健康とフレイル[※]対策について

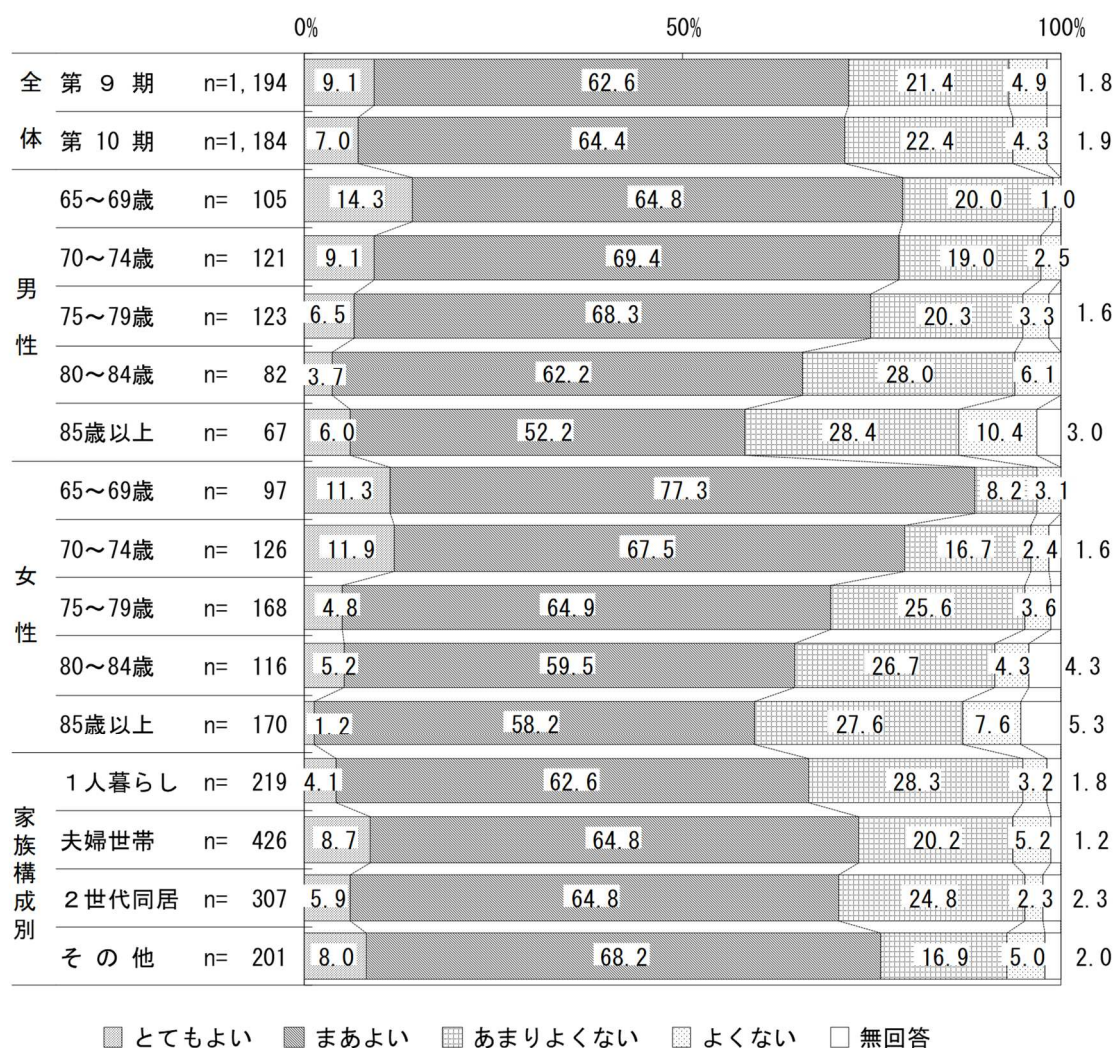
▶主観的健康感として《健康でない》（「よくない」＋「あまりよくない」）ことを自覚している人が26.7%います。男女ともに加齢にしたがい《健康でない》が高くなっています。

また、家族構成別にみると、《健康でない》が最も高いのは1人暮らしであり、31.5%あります(図表19)。

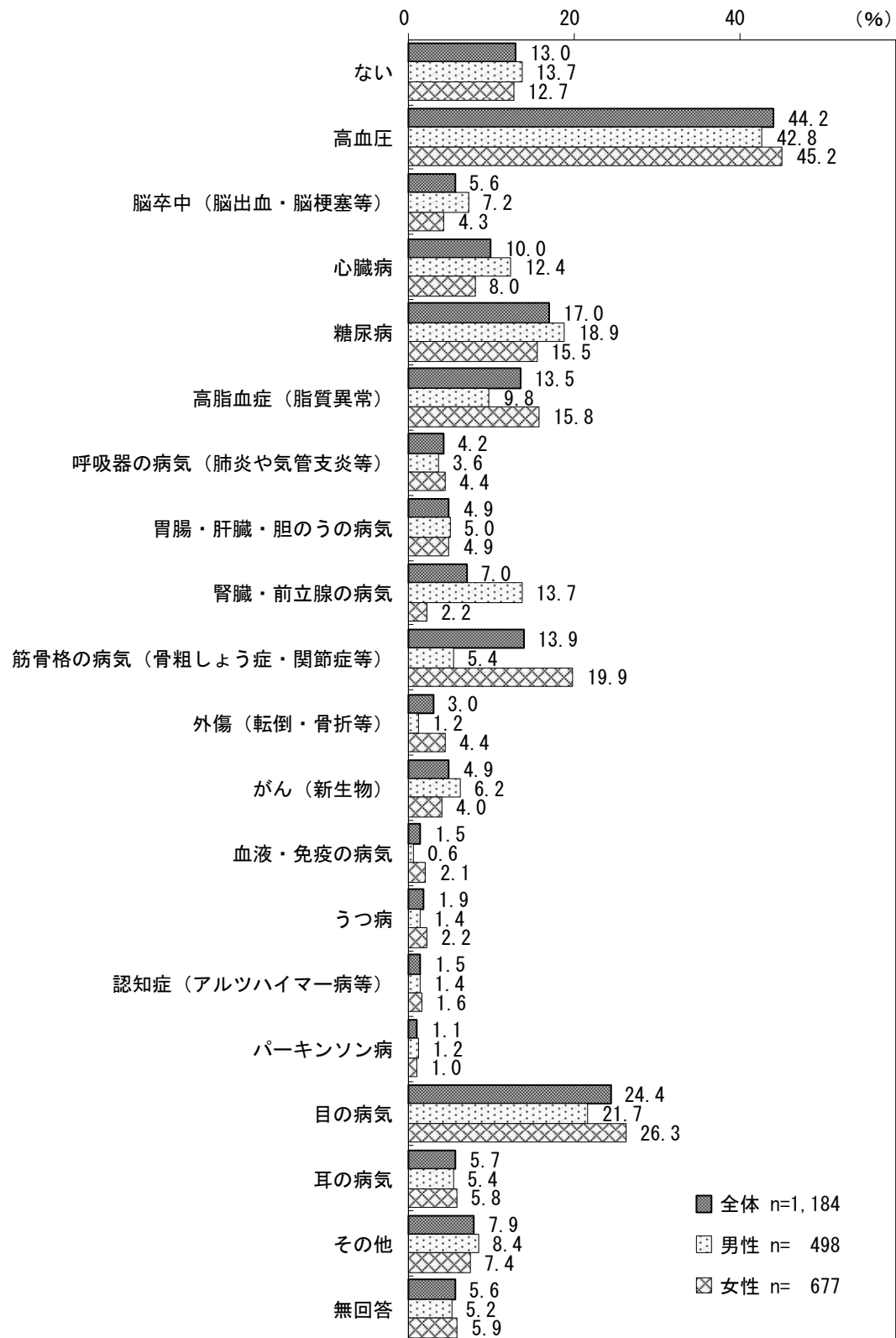
▶治療中または後遺症のある病気をみると、「高血圧」が44.2%と突出して高く、次いで「目の病気」(24.4%)、「糖尿病」(17.0%) などとなっています。性別により差が大きいのは、女性が高い「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」と男性が高い「腎臓・前立腺の病気」であり、それぞれ10ポイント以上の差があります(図表20)。

※フレイルとは、加齢とともに心身の活力(運動機能や認知機能等)が低下した「虚弱」な状態を指し、健康な状態と日常生活で介護が必要な状態の中間の状態をいう。

図表19 主観的な健康状態

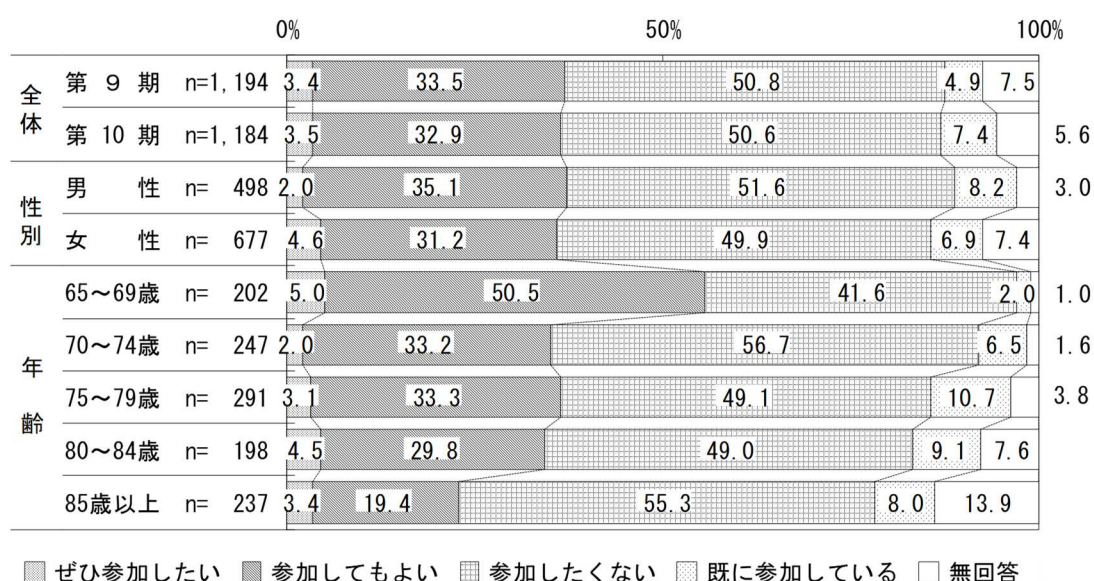


図表 20 現在、治療中または後遺症のある病気（複数回答）

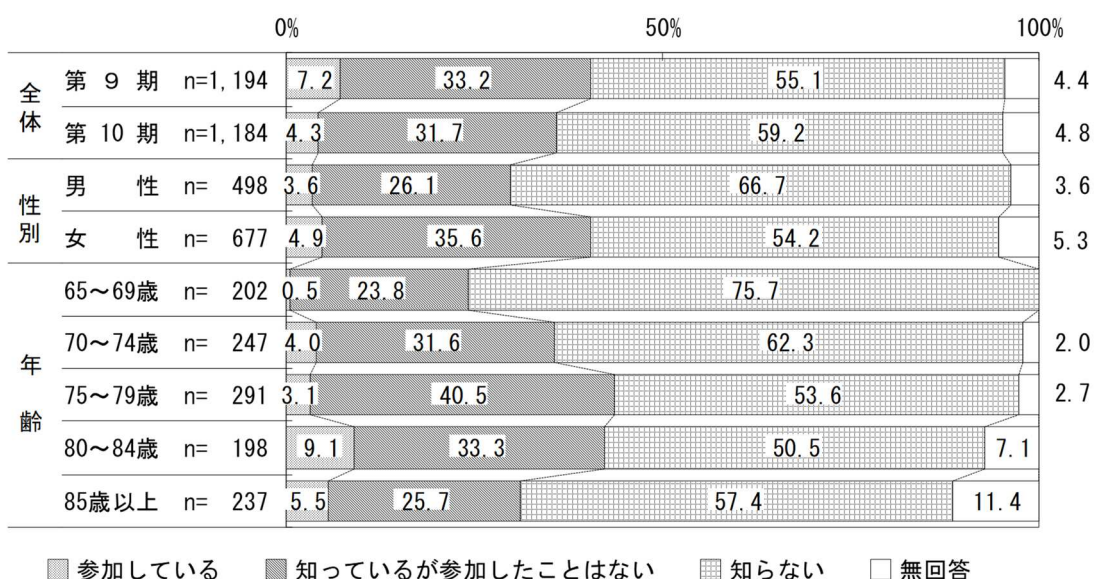


- ▶健康づくり活動等への参加意向（「ぜひ参加したい」＋「参加してもよい」）は36.4%です。第9期に比べ「既に参加している」が2.5ポイント上昇しています（図表21）。
- ▶「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みは、「参加している」は4.3%ですが（図表22）、参加意向（「ぜひ参加したい」＋「参加してもよい」）は30%を超えています（図表23）。
- ▶活動量計「ホコタッチ」の利用率は20.0%ですが（図表24）、未利用者の利用意向（「ぜひ利用したい」＋「利用してもよい」）は30%を超えています（図表25）。

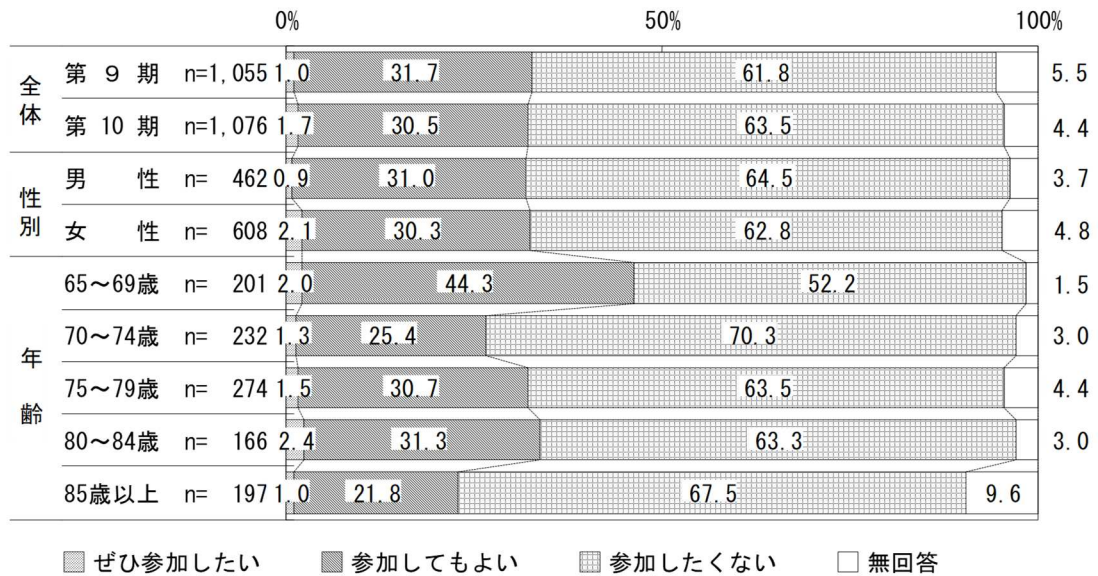
図表21 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向＜参加者として＞



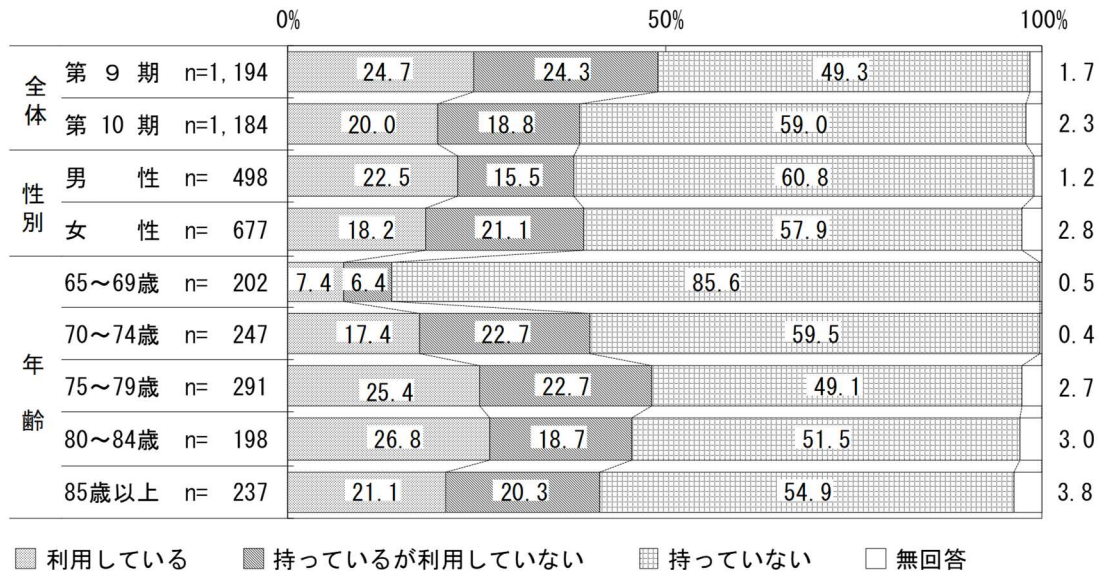
図表22 「健康自生地」を活用したフレイル予防の取り組みへの参加状況



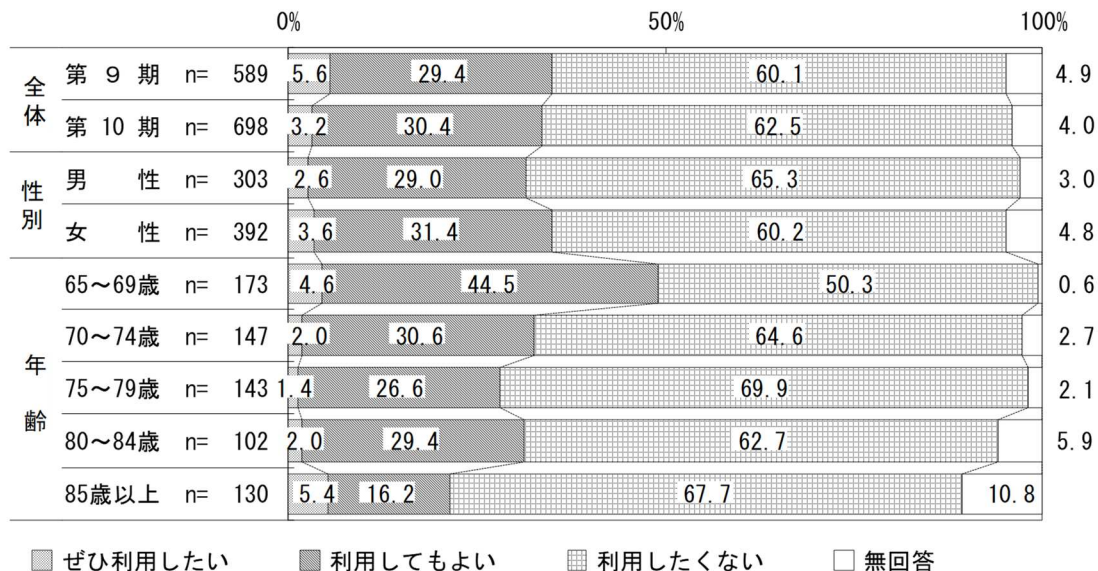
図表 23 「健康自生地」を活用したフレイル介護予防の取り組みへの参加意向（参加していない人のみ）



図表 24 「ホコタッチ」の利用状況



図表 25 「ホコタッチ」の利用意向（未利用者のみ）



▶高齢者施策の中で《満足度》が最も高かったのは、③介護保険サービスで13.9%、次いで②医療の提供体制が13.8%、⑦相談支援体制が12.5%などとなっています。第9期との比較では、全般的に《満足度》が低下しています。

図表26 高齢者施策の満足度

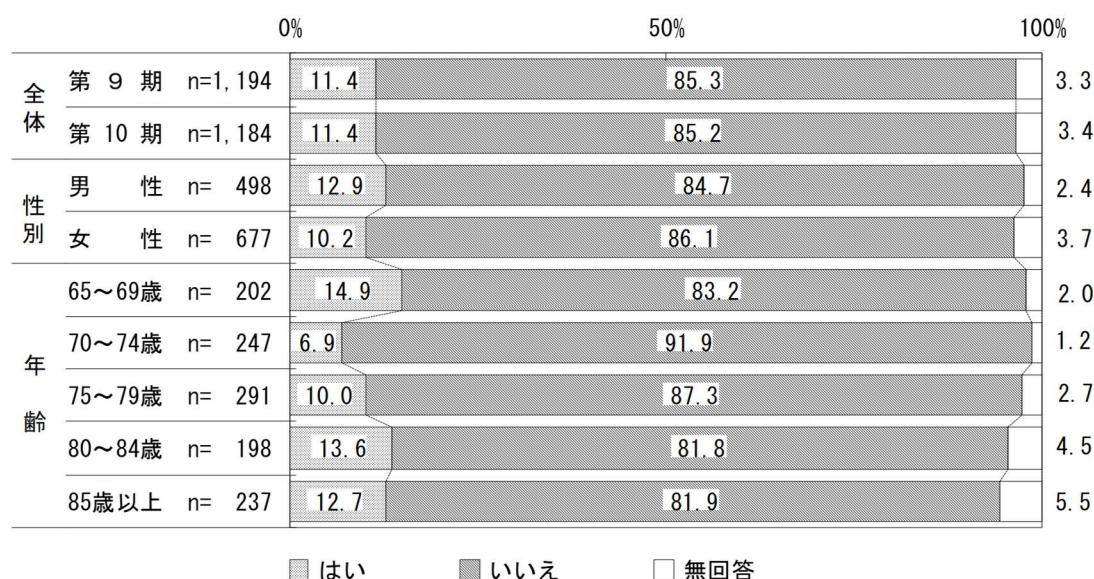
単位：％

区 分	第9期 n=1,194 第10期 n=1,184	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	《満足度》 (満足+まあ満足)
①健康づくりやフレイル予防の施策	第9期	2.4	12.9	55.0	3.9	2.1	23.7	15.3
	第10期	1.9	10.3	58.7	4.1	1.1	23.9	12.2
②医療の提供体制	第9期	3.8	12.2	54.4	4.8	1.9	22.9	16.0
	第10期	2.4	11.4	55.9	4.7	1.9	23.6	13.8
③介護保険サービス	第9期	3.2	15.3	52.2	4.7	2.2	22.4	18.5
	第10期	2.6	11.3	56.8	4.7	1.7	22.9	13.9
④生活支援サービスや見守り体制	第9期	2.5	11.9	55.1	5.1	1.9	23.5	14.4
	第10期	1.6	10.2	57.9	5.3	1.4	23.5	11.8
⑤住まいに関する施策	第9期	1.8	11.1	56.3	5.2	1.8	23.8	12.9
	第10期	1.4	7.3	60.5	5.1	1.7	24.1	8.7
⑥生きがいづくりに関する施策	第9期	1.9	11.6	55.2	4.9	2.4	24.0	13.5
	第10期	1.2	8.3	60.0	5.0	1.6	24.0	9.5
⑦相談支援体制	第9期	3.3	12.9	52.6	5.4	2.8	23.0	16.2
	第10期	2.0	10.5	57.7	4.9	1.4	23.5	12.5

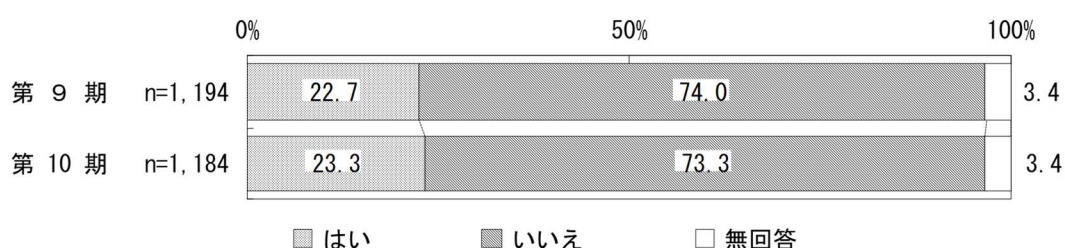
(5) 認知症について

- ▶ 本人（要介護認定者以外）又は家族に認知症の症状のある人が11.4%です。第9期から変化はありません（図表27）。
- ▶ 認知症に関する相談窓口の認知度は23.3%です（図表28）。
- ▶ 認知症の人が地域で生活するための地域住民の協力については、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が63.8%と最も高く、「必要だとは思わない」はわずか0.6%です。ほとんどの人が認知症の人とその家族への地域の協力が必要であると考えていることがわかります（図表29）。
- ▶ 認知症に対するイメージは、「認知症になると、介護施設でサポートを利用することが必要となる」が27.2%と最も高くなっていますが、次いで「医療・介護などのサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる」が23.6%、「周りのサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活できる」が14.9%などとなっており、医療・介護サービスや周りのサポートがあれば住み慣れた地域で生活できると考えている人も多くいることがわかります（図表30）。

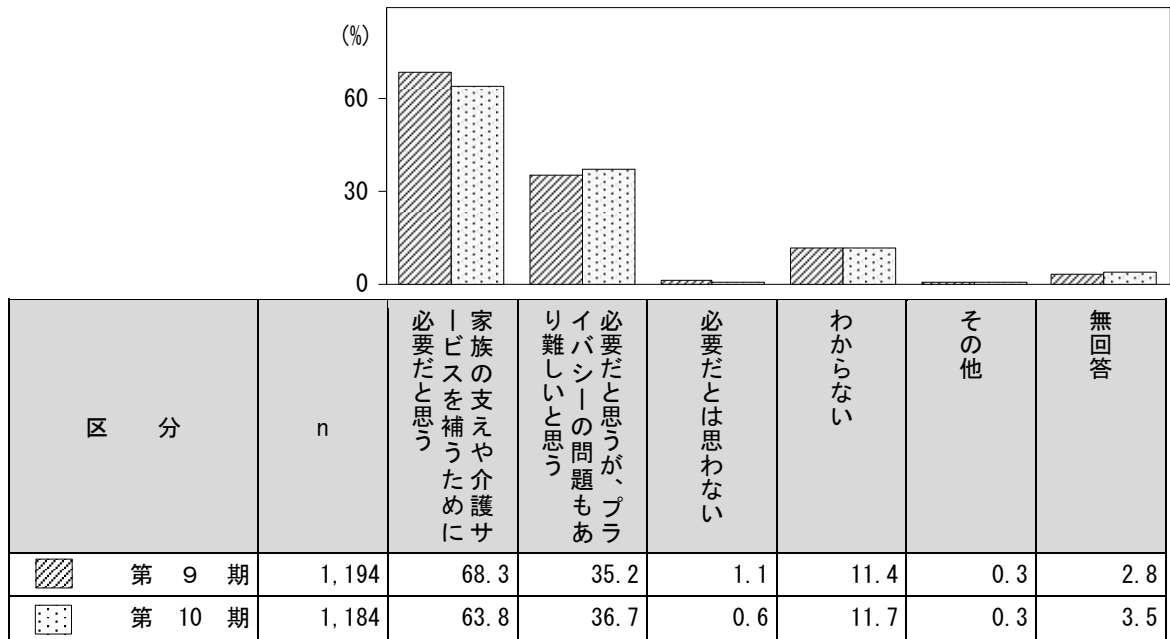
図表27 認知症の症状の有無



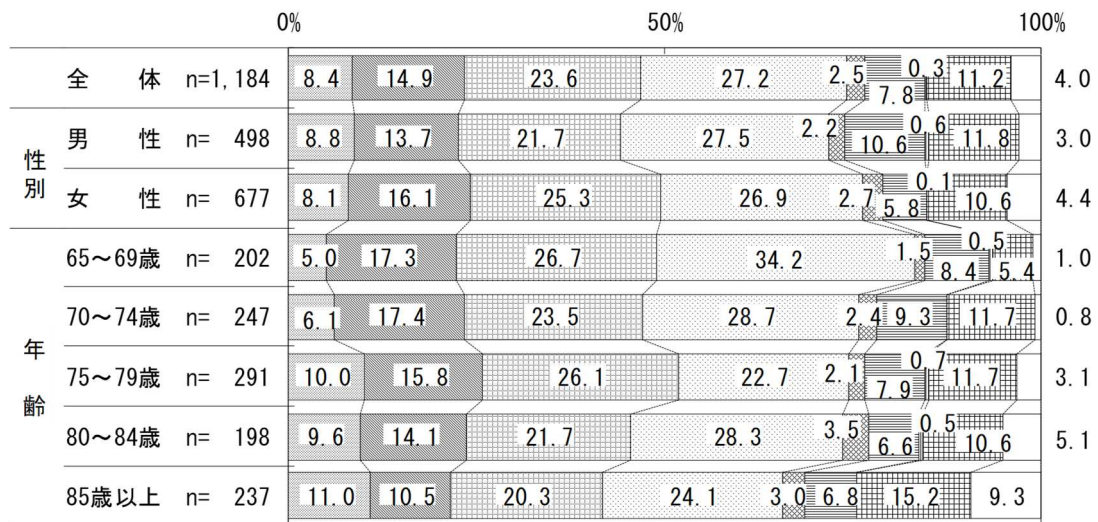
図表28 認知症に関する相談窓口を知っているか



図表29 認知症高齢者への地域住民の協力（複数回答）



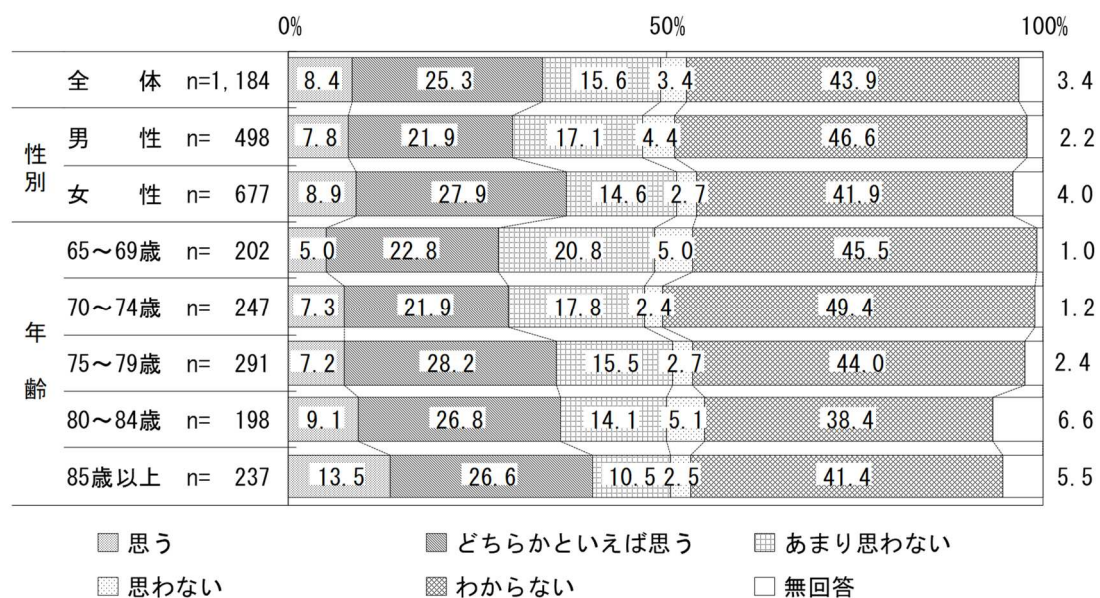
図表30 認知症に対するイメージ



- できないことを自分で工夫しながら、今までどおり自立的に生活できる
- 周りのサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活できる
- 医療・介護などのサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる
- 認知症になると、介護施設でサポートを利用することが必要となる
- 認知症になると、周りに迷惑をかけるので住み慣れた地域で生活できなくなる
- 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
- その他
- わからない
- 無回答

▶「高浜市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「わからない」が40%以上を占めていますが、次いで「どちらかといえば思う」が25.3%となっており、「思う」（8.4%）との合計《暮らし続けられると思う》は33.7%です。

図表31 高浜市は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けられるまちか

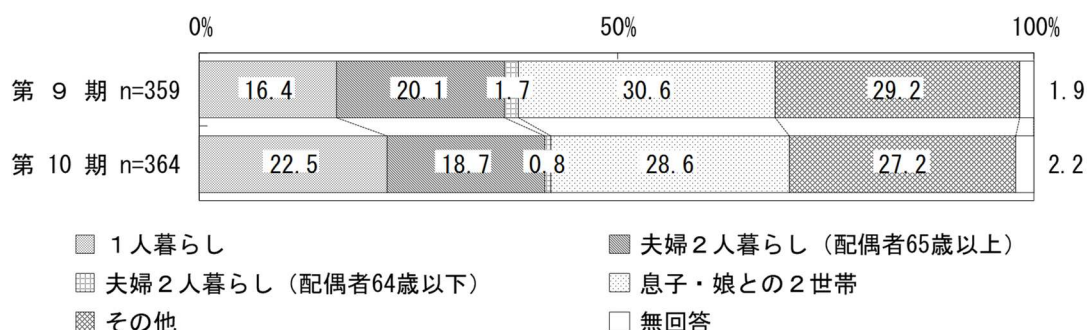


2 在宅介護実態調査

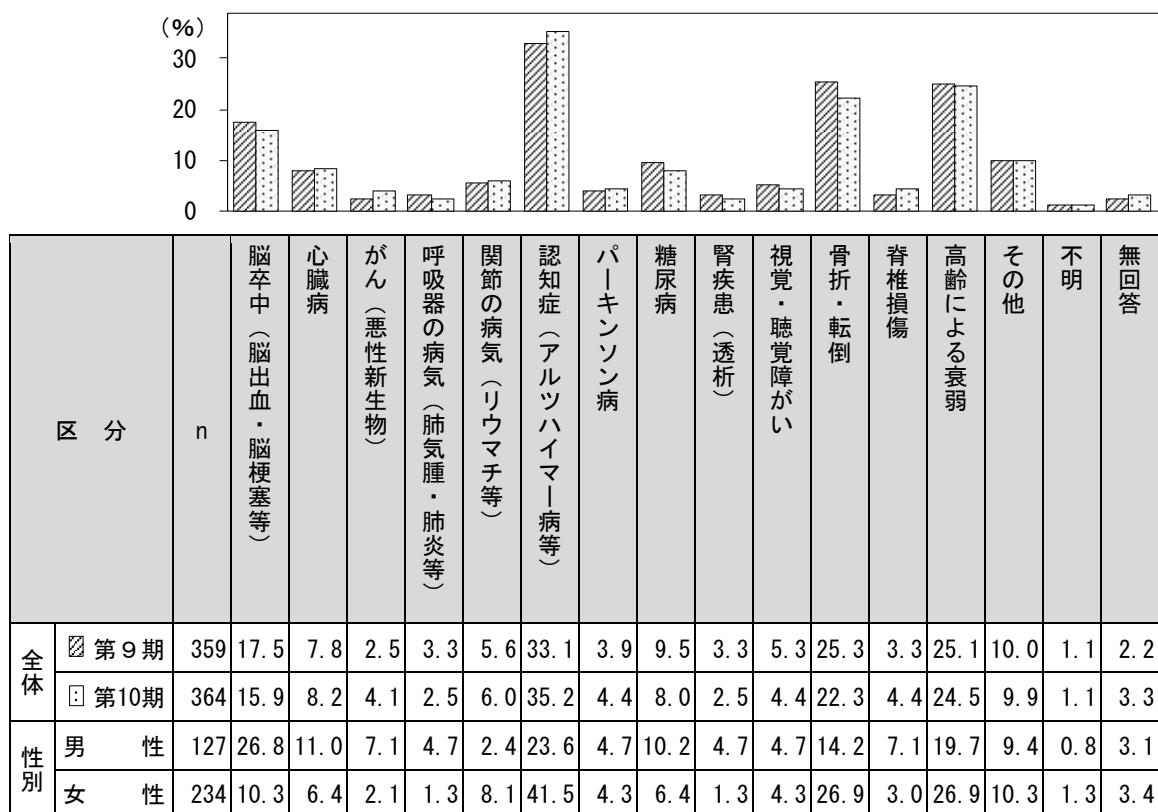
(1) 要介護認定者の状況について

- ▶ 家族構成は、「息子・娘との2世帯」が28.6%と最も高くなっています。「1人暮らし」が22.5%あり、第9期に比べ6.1ポイント高くなっています（図表32）。
- ▶ 介護が必要となった主な原因としては、「認知症（アルツハイマー病等）」が35.2%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」が24.5%、「骨折・転倒」が22.3%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が15.9%などとなっています。第9期との比較では、「認知症（アルツハイマー病等）」が2ポイント以上上昇しています（図表33）。

図表32 家族構成



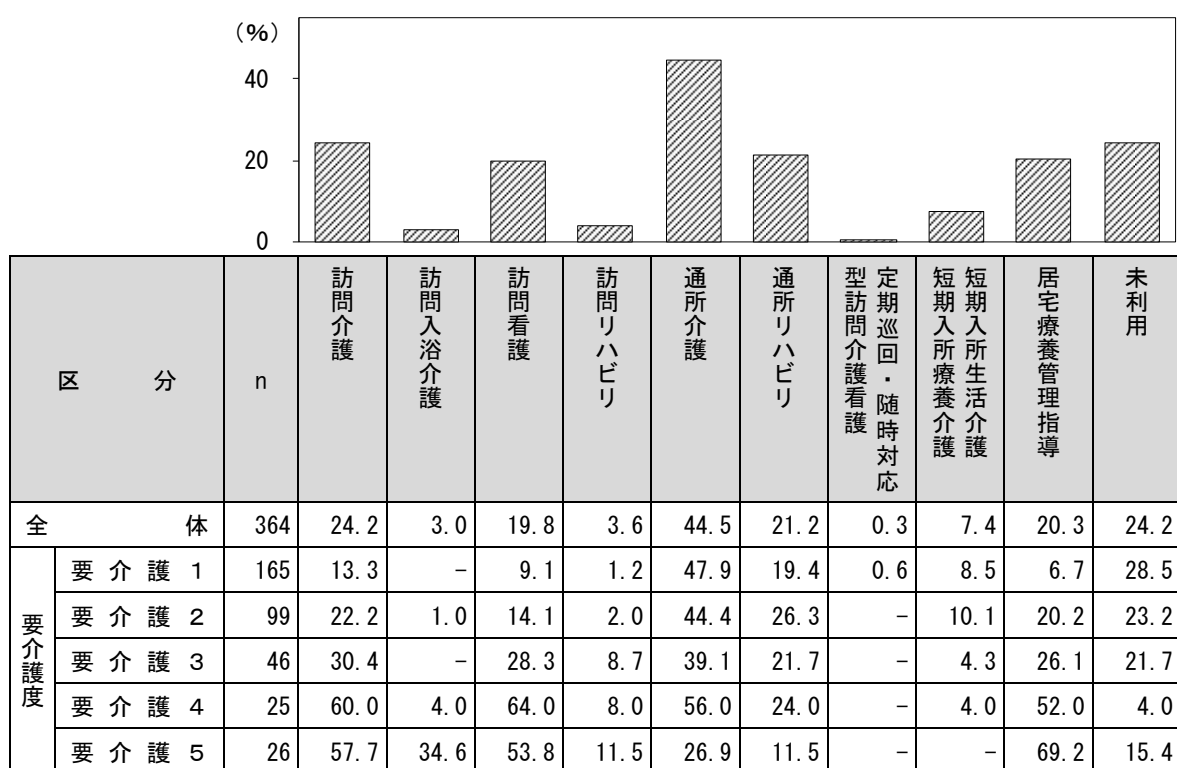
図表33 介護・介助が必要になった原因（複数回答）



(2) 介護保険サービスについて

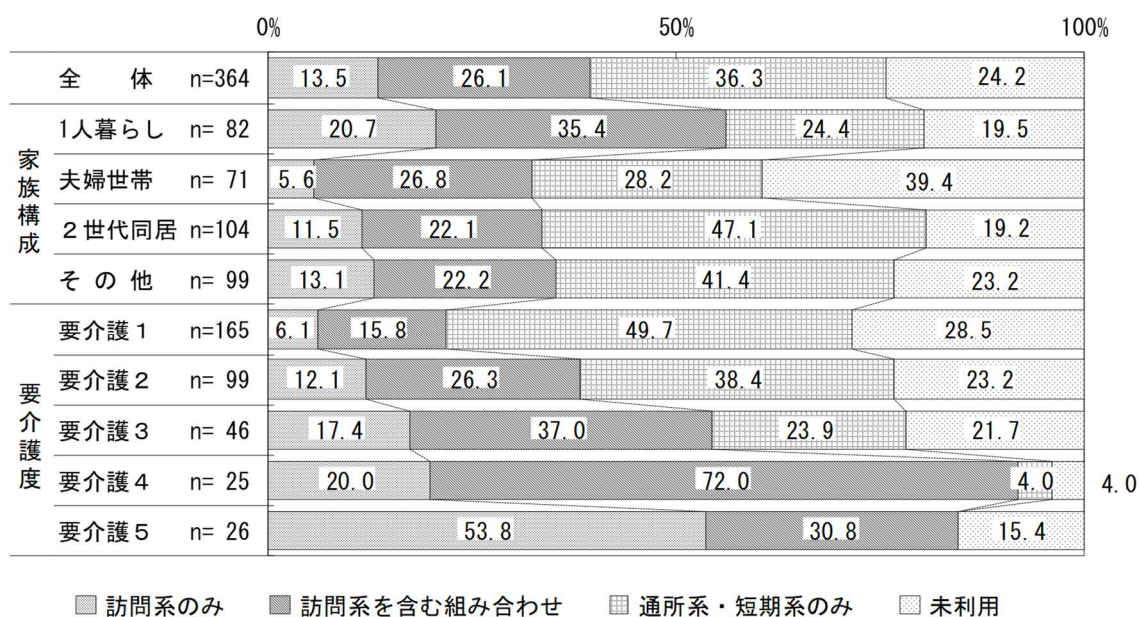
- ▶介護保険の居宅サービスの利用状況は、「通所介護」が44.5%と最も高く、次いで「訪問介護」が24.2%、「通所リハビリ」が21.2%、「居宅療養管理指導」が20.3%などとなっています。要介護度別にみると、要介護4の「訪問看護」および「訪問介護」並びに要介護5の「居宅療養管理指導」が60%以上の高い率となっています(図表34)。
- ▶利用しているサービスの組み合わせをみると、「通所系・短期系のみ」が36.3%を占め、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.1%などとなっています。家族構成別にみると、1人暮らしでは「訪問系を含む組み合わせ」が最も高く35.4%あります。一方、夫婦世帯では「未利用」が39.4%を占めています。要介護度別では、重度化にしたがい「訪問系のみ」および「訪問系を含む組み合わせ」が高く、「通所系・短期系のみ」が低くなる傾向にあります(図表35)。
- ▶介護保険サービスの満足度は「ほぼ満足している」が50.6%を占め、「満足している」(29.2%)との合計《満足》は79.8%です。一方、「不満である」(0.4%)および「やや不満である」(2.5%)の合計《不満》は2.9%です(図表36)。

図表34 介護保険サービス（居宅）の種類別利用状況（利用状況データ）

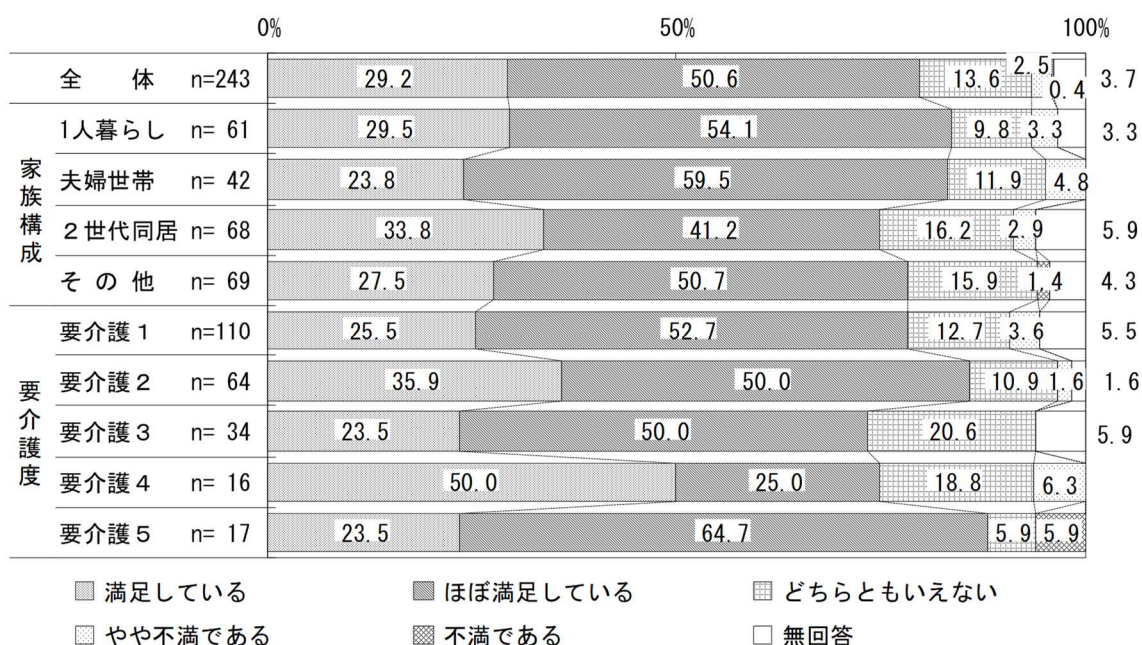


※「通所介護」には地域密着型通所介護を含む

図表35 利用しているサービスの組み合わせ（利用状況データ）

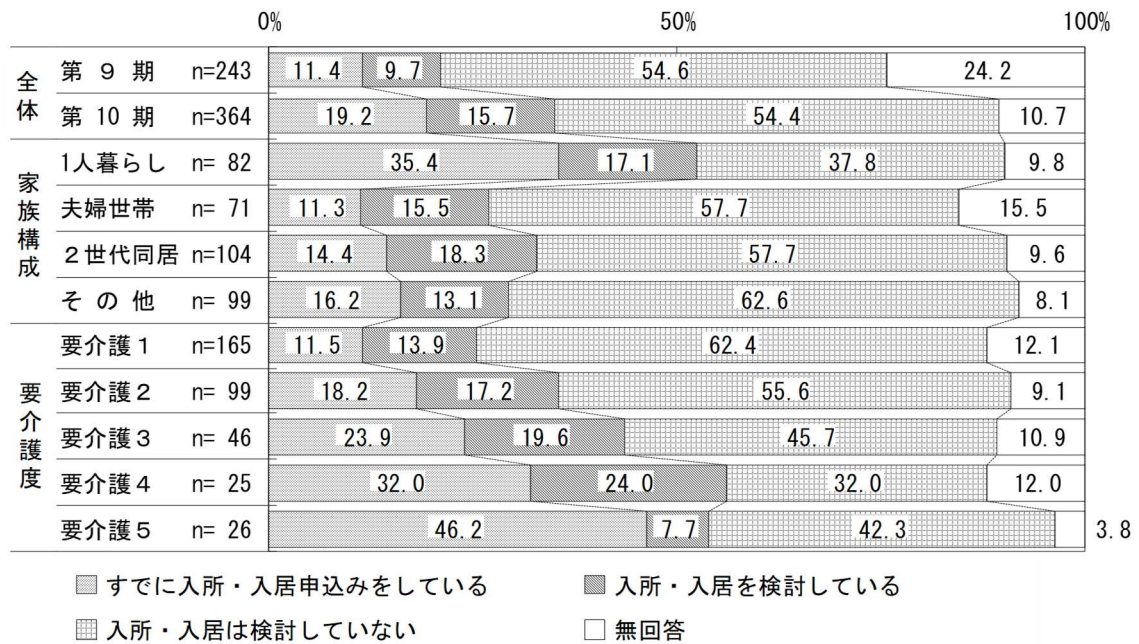


図表 36 介護保険の居宅サービスの満足度

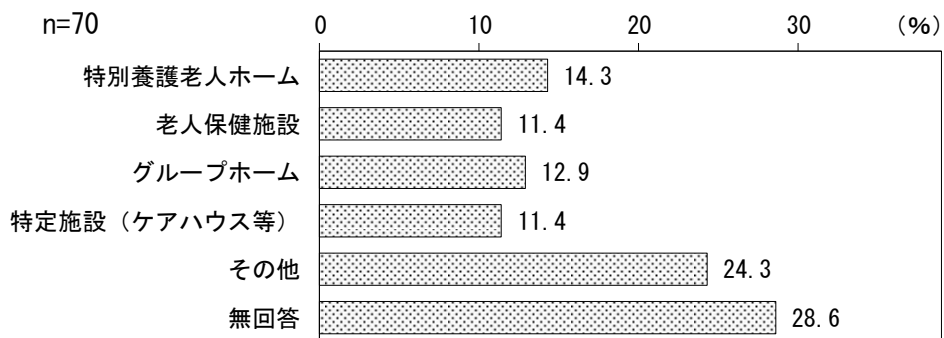


- ▶施設等への入所・入居の検討状況については、「すでに入所・入居申込みをしている」は19.2%で、第9期に比べ7.8ポイント上昇しています（図表37）。
- ▶「すでに入所・入居申込みをしている」と回答した人の申請している施設は、住宅型有料老人ホーム等が想定される「その他」が24.3%と最も高く、次いで「特別養護老人ホーム」が14.3%、グループホームが12.9%などとなっています（図表38）。
- ▶入りたい時期については、「当面は希望しないが、とりあえず申し込んでいる」が32.3%を占めています（図表39）。

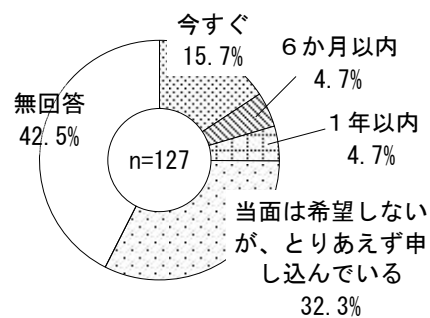
図表 37 施設等への入所・入居の検討状況



図表38 入所・入居待機施設



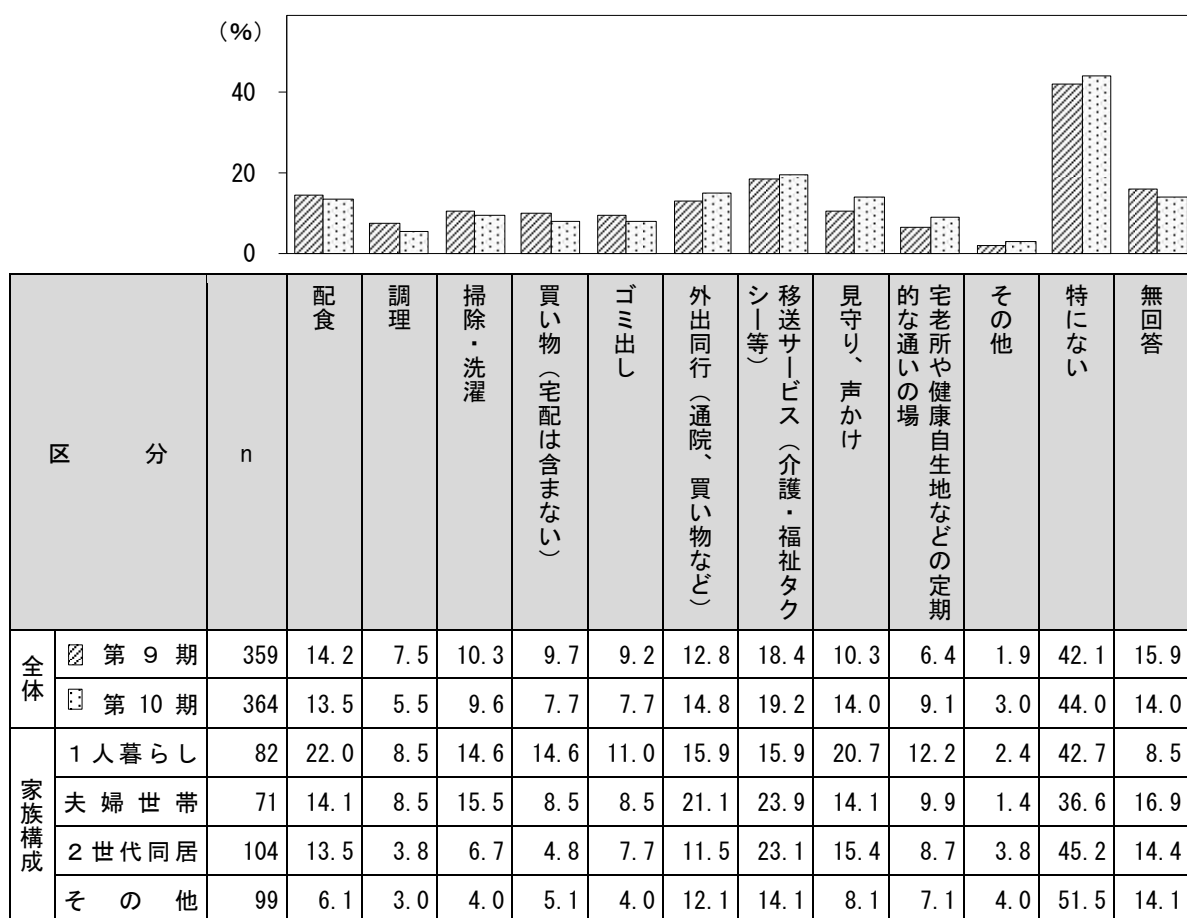
図表39 施設等への入所・入居希望時期



(3) 高齢者施策について

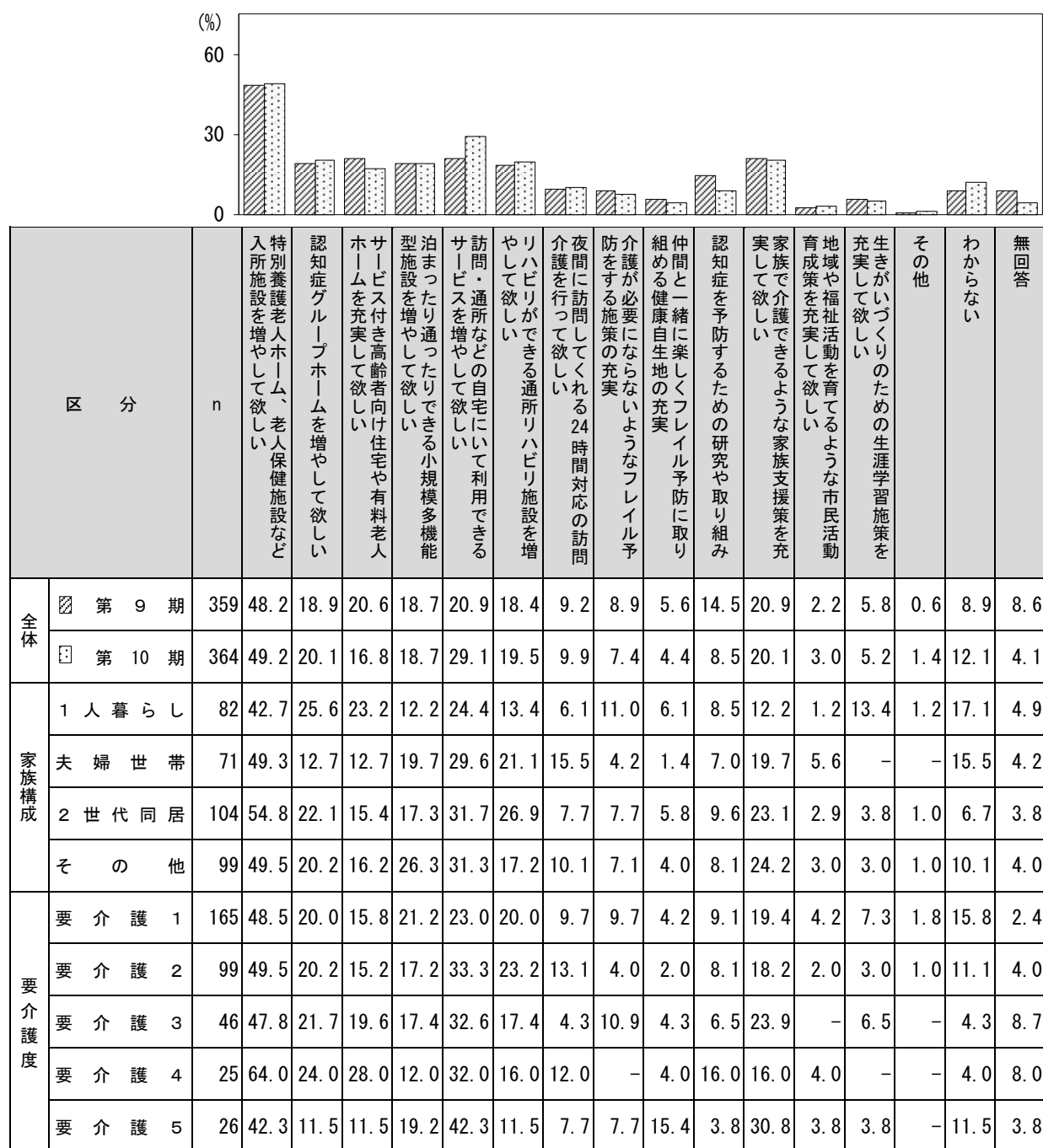
- ▶要介護認定者の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとしては「移送サービス」が19.2%と最も高く、次いで「外出同行」が14.8%、「見守り・声かけ」が14.0%、「配食」が13.5%などとなっています。第9期に比べ「見守り、声かけ」、「宅老所や健康自生地などの定期的な通いの場」、「外出同行」、「移送サービス」など地域との関わり、社会参加に関わる項目が高くなっています。
- ▶家族構成別にみると、全般的に1人暮らしが高くなっています。

図表35 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



▶介護保険サービスおよび高齢者施策の充実のため、市に希望することとしては、「特別養護老人ホーム、老人保健施設などの入所施設を増やして欲しい」が49.2%と最も高くなっています。第9期に比べ「訪問・通所などの自宅にいて利用できるサービスを増やして欲しい」が8.2ポイント上昇しています。

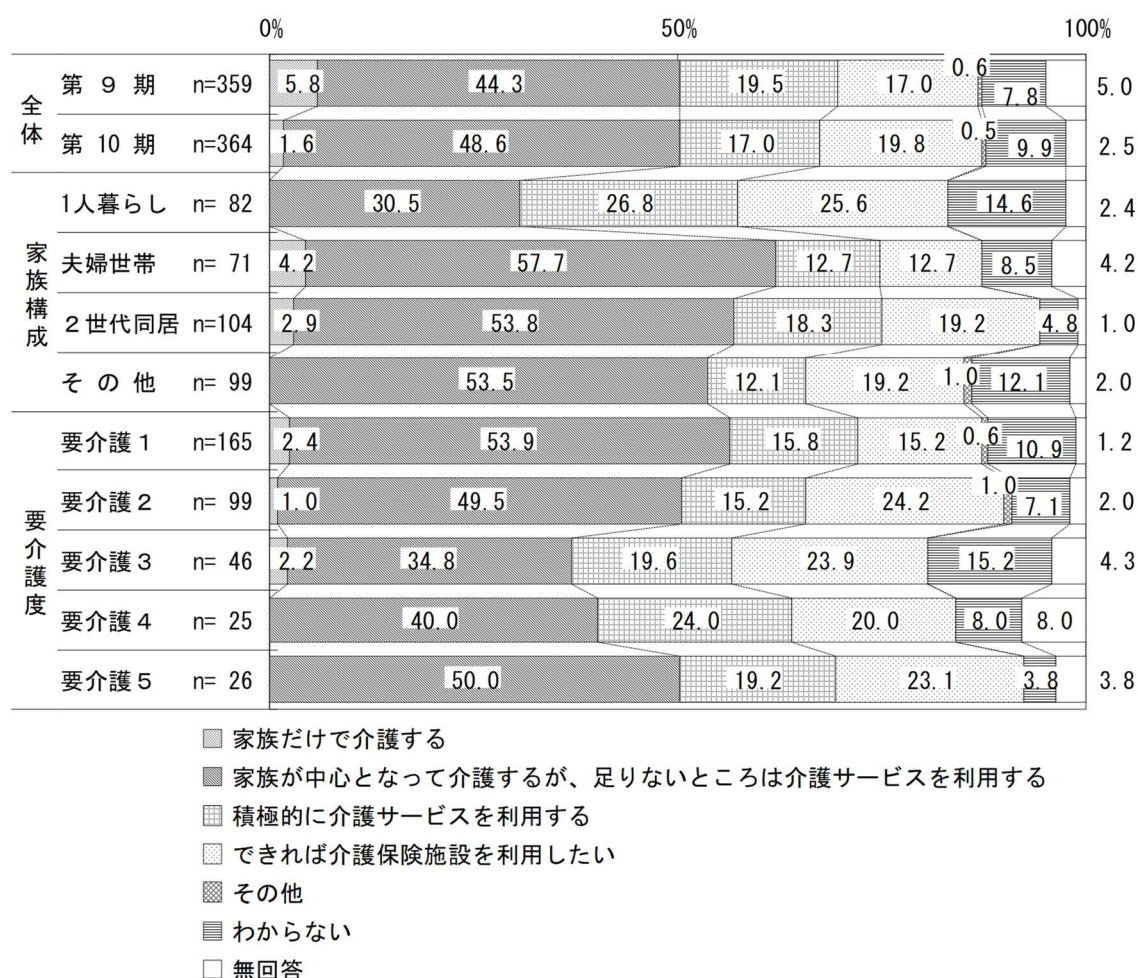
図表36 市に希望すること（複数回答・3つまで）



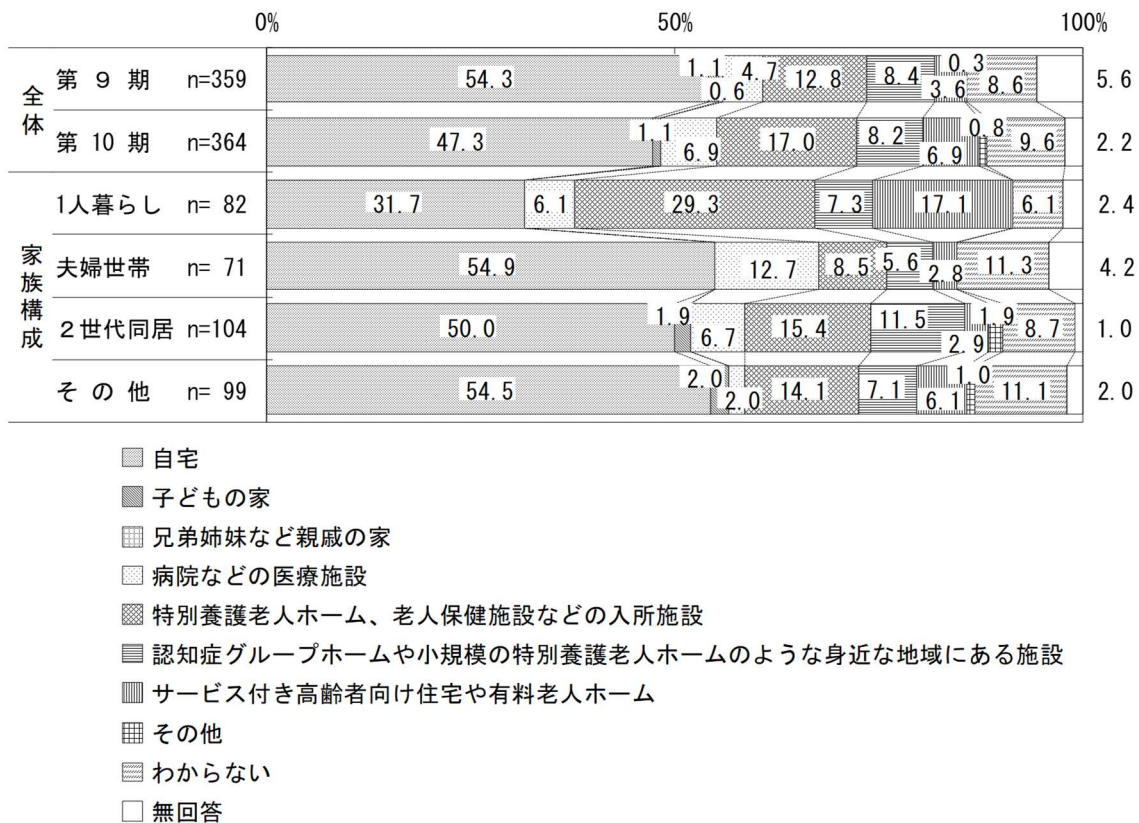
(4) これからの介護や在宅医療に関する希望について

- ▶今後の介護の希望としては、「家族が中心となって介護するが、足りないところは介護サービスを利用する」が48.6%と最も高くなっています。第9期に比べ「家族だけで介護する」が4.2ポイント低下しています。1人暮らしでは「できれば介護保険施設を利用したい」が25.6%と比較的高くなっています（図表39）。
- ▶今後、介護を受けたい場所としては、「自宅」が47.3%を占めていますが、第9期に比べ7.0ポイント低下しています（図表40）。
- ▶人生の最期を「自宅」で迎えたい人が53.6%を占めていますが、第9期に比べ5ポイント以上低下しています（図表41）。
- ▶自宅で最期を迎えるための条件として「家族の理解や協力が得られること」、「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制が整っていること」、「容態の急変時など受け入れてくれる病院などが整っていること」が50%を超える高い率となっています（図表42）。
- ▶在宅の要介護認定者の27.7%が訪問診療を利用しており、要介護5では利用率が70%を超えています（図表43）。

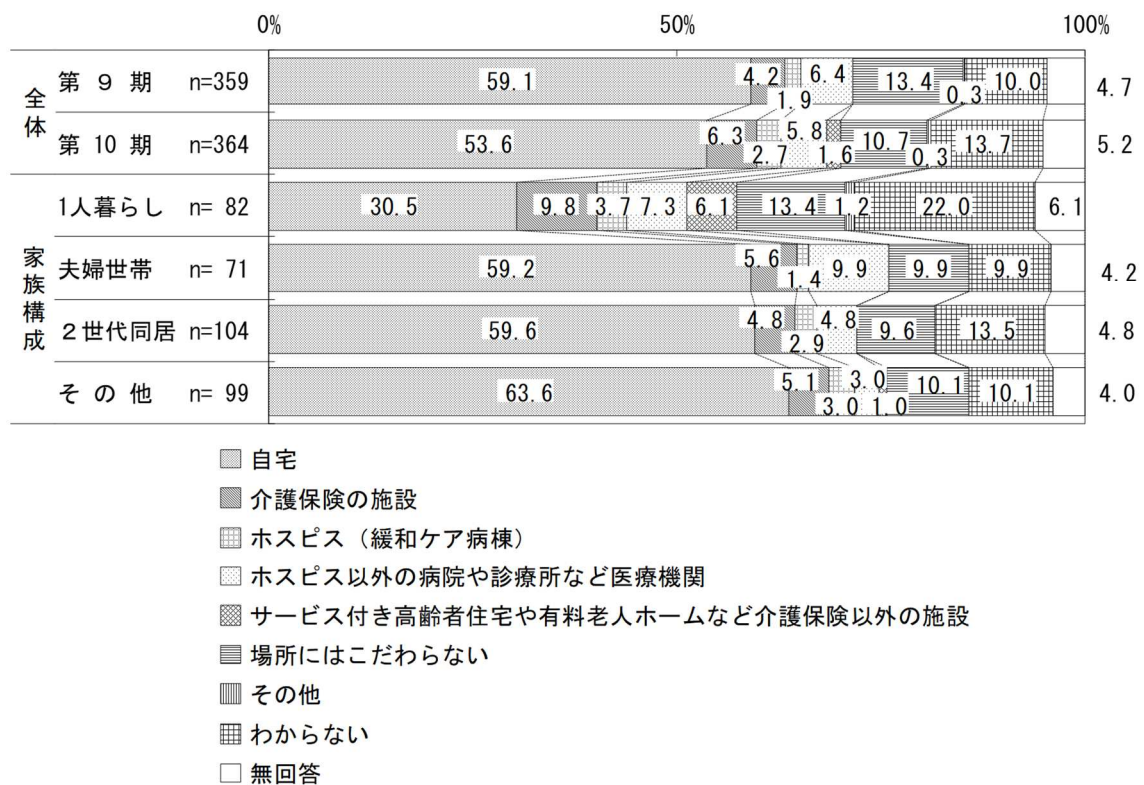
図表 39 今後の介護の希望



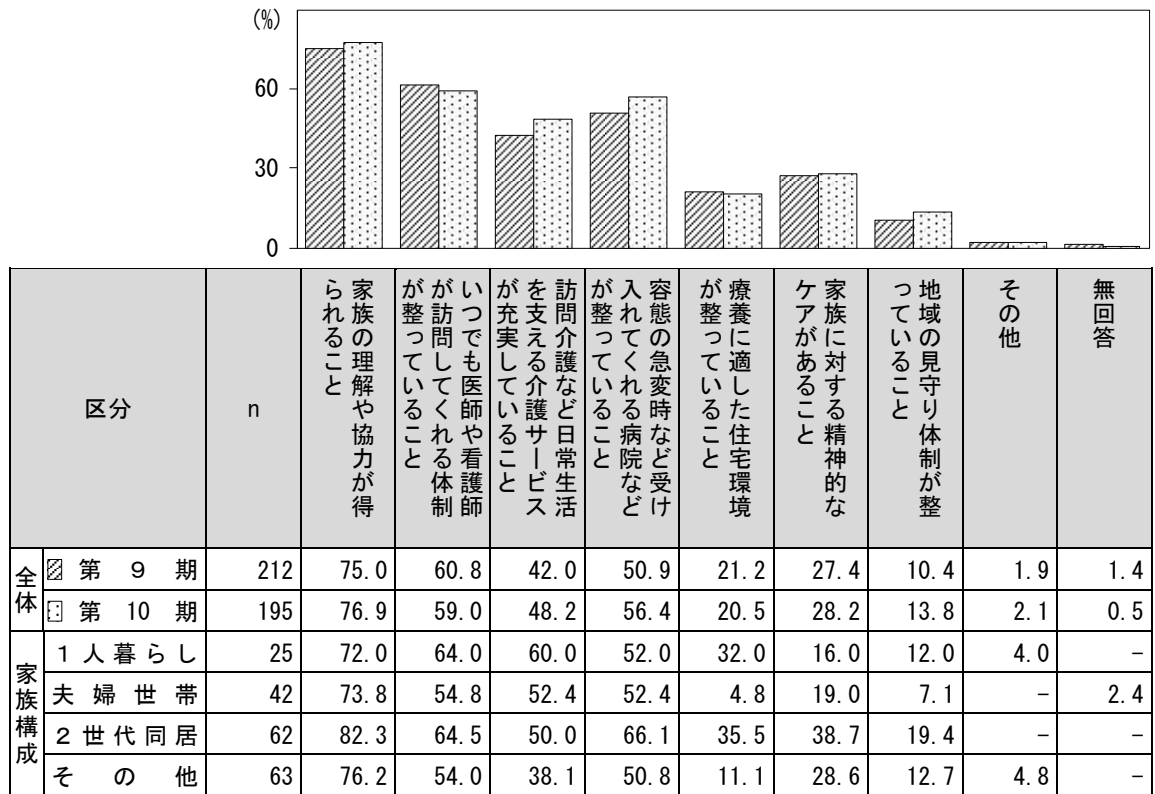
図表40 今後、介護を受けたい場所



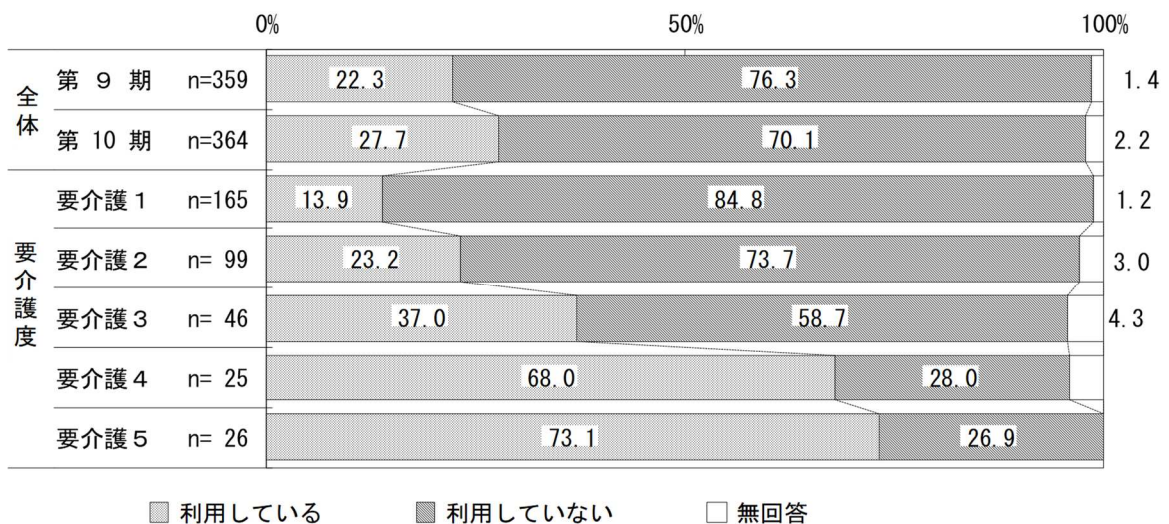
図表 41 人生の最期をどこで迎えたいと考えるか



図表42 自宅で安心して人生の最期を迎えるための条件（複数回答）



図表 43 訪問診療の利用状況

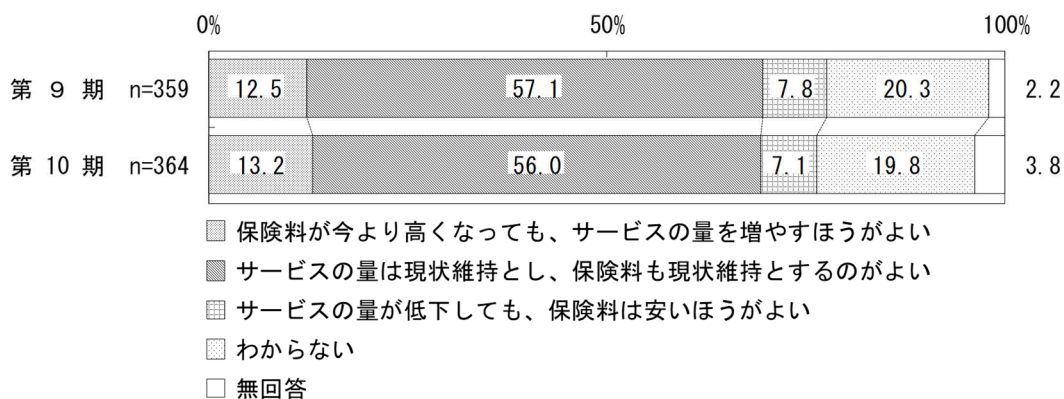


(5) 介護保険制度について

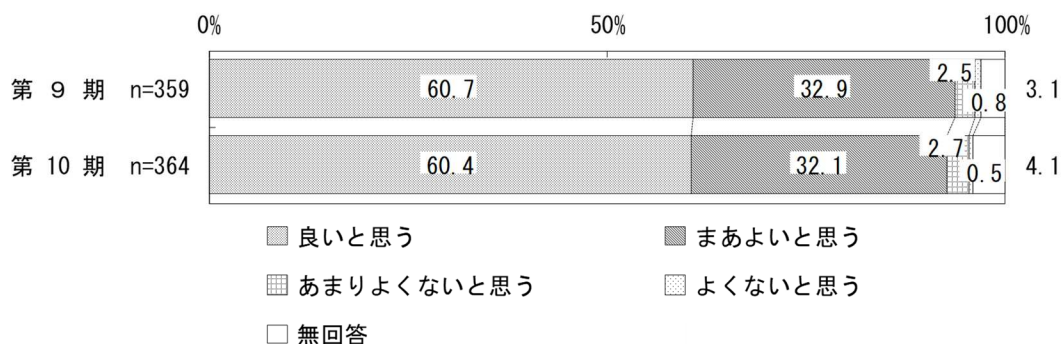
▶介護保険サービスの水準と保険料の関係については、「サービスの量は現状維持とし、保険料も現状維持とするのがよい」が56.0%を占めています。第9期に比べ、わずか0.7ポイントですが、「保険料が今より高くなっても、サービスの量を増やすほうがよい」が上昇し、「サービスの量が低下しても、保険料は安いほうがよい」が低下しています（図表44）。

▶介護保険制度については、「良いと思う」が60.4%を占めており、「まあよいと思う」（32.1%）との合計《良い》は92.5%です。第9期との比較では、わずかに低下しているものの、多くの人が負担を感じながらも、制度の必要性を認めていることがわかります（図表45）。

図表44 介護保険サービスの水準と保険料

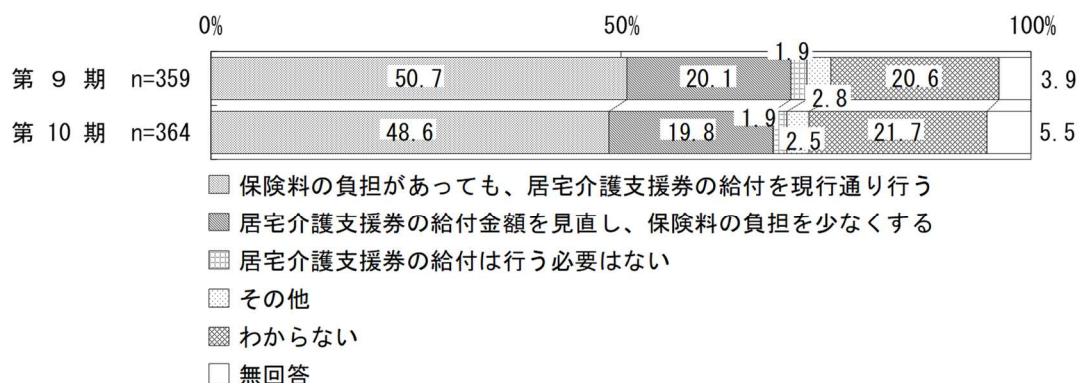


図表45 介護保険制度について

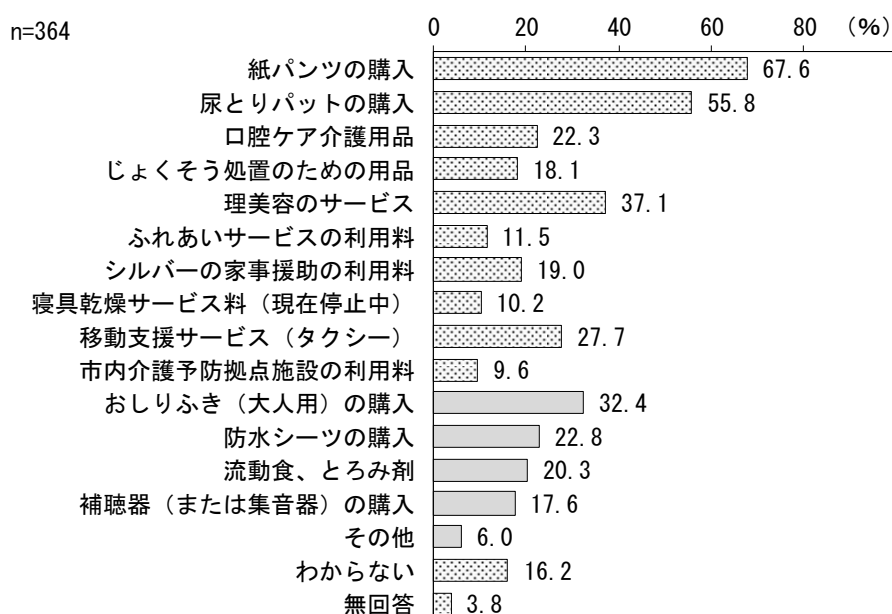


- ▶居宅介護支援券の給付（横だしサービス）については、「保険料の負担があっても、居宅介護支援券の給付を現行通り行う」が48.6%を占めています。「居宅介護支援券の給付金額の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が19.8%、「居宅介護支援券の給付は行う必要はない」が1.9%となっています（図表46）。
- ▶居宅介護支援券の利用できる品目等については、「紙パンツの購入」が67.6%と最も高く、次いで「尿とりパットの購入」が55.8%となっています。なお、現在、利用対象となっていない項目では、「おしりふき（大人用）の購入」が32.4%、「防水シーツの購入」が22.8%、「流動食、とろみ剤」が20.3%などとなっています（図表47）。
- ▶居宅介護支援券の給付対象者については、「要支援・要介護認定を受けている方のみを補助の対象とする」が51.9%を占めており、「保険料の負担が増えても現行どおり、事業対象者も補助の対象とする」は11.3%でした（図表48）。

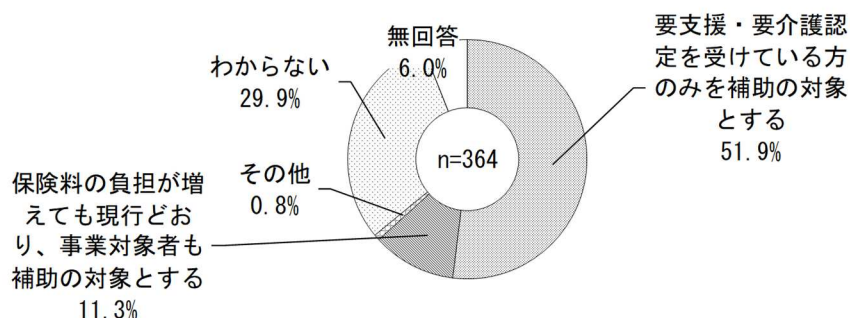
図表46 居宅介護支援券の給付（横出しサービス）について



図表47 居宅介護支援券の利用できるサービスについて（複数回答）



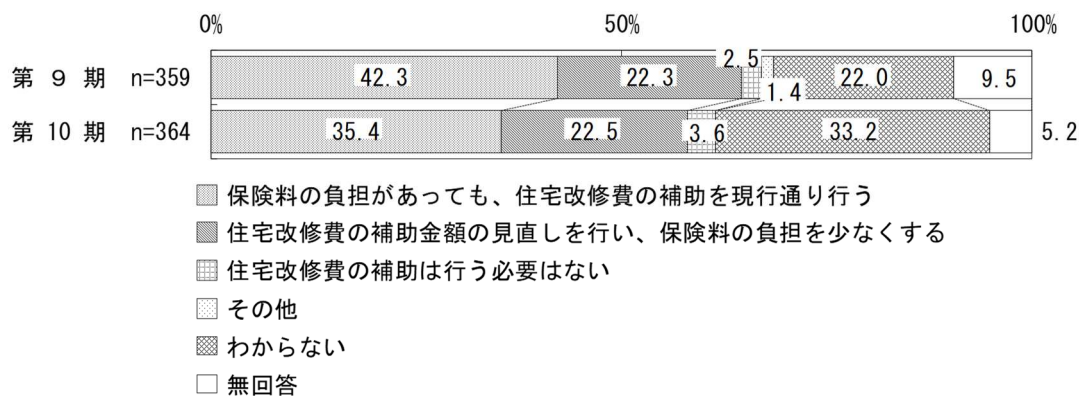
図表48 居宅介護支援券の給付対象者について



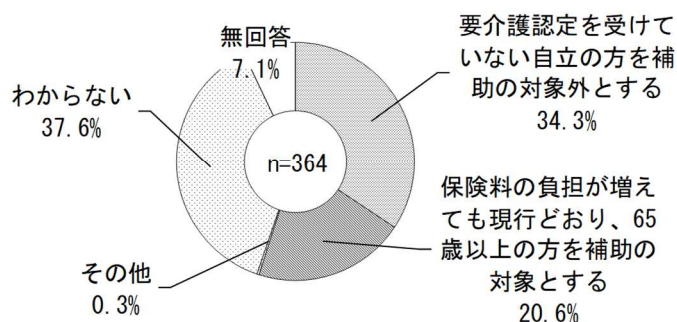
▶住宅改修費の給付（横だしサービス）については、「保険料の負担があっても、住宅改修費の補助を現行通り行う」が35.4%と最も高くなっています。「住宅改修費の補助金額の見直しを行い、保険料の負担を少なくする」が22.5%、「住宅改修費の補助は行う必要はない」が3.6%となっています（図表49）。

▶住宅改修費の補助対象者については、「要介護認定を受けていない自立の方を補助の対象外とする」が34.3%と最も高くなっており、「保険料の負担が増えても現行どおり、65歳以上の方を補助の対象とする」は20.6%でした（図表50）。

図表49 住宅改修費の給付（横出しサービス）について



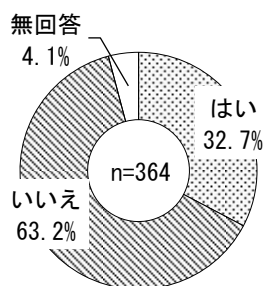
図表50 住宅改修費の補助対象者について



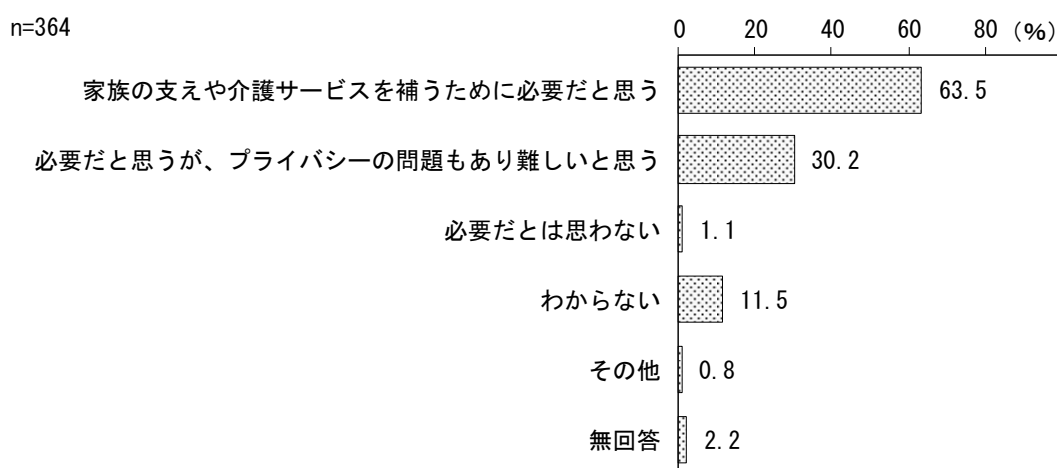
(6) 認知症について

- ▶ 認知症に関する相談窓口の認知度は32.7%です。要介護認定を受けていない人に比べ9.4ポイント高くなっています（図表51 [図表28参照]）。
- ▶ 認知症の人が地域で生活するための地域住民の協力については、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が63.5%と最も高く、「必要だと思わない」はわずか1.1%です。要介護認定を受けていない人とほぼ同様の結果です(図表52[図表29参照])。
- ▶ 認知症に対するイメージは、「認知症になると、介護施設でサポートを利用することが必要となる」が29.7%と最も高くなっていますが、次いで「医療・介護などのサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる」が23.1%、「周りのサポートを受けながら、住み慣れた地域で生活できる」が13.5%などとなっており、要介護認定を受けていない人とほぼ同様の結果です(図表53 [図表30参照])。

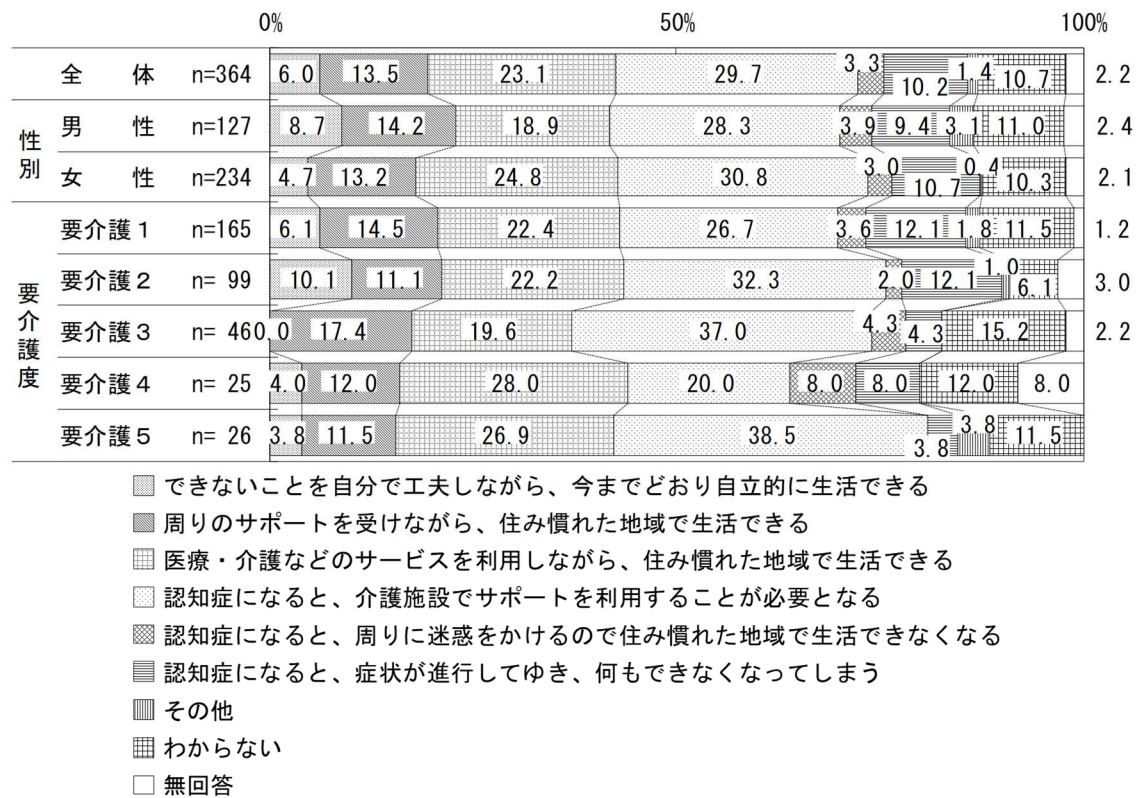
図表51 認知症に関する相談窓口を知っているか



図表52 認知症高齢者への地域住民の協力（複数回答）

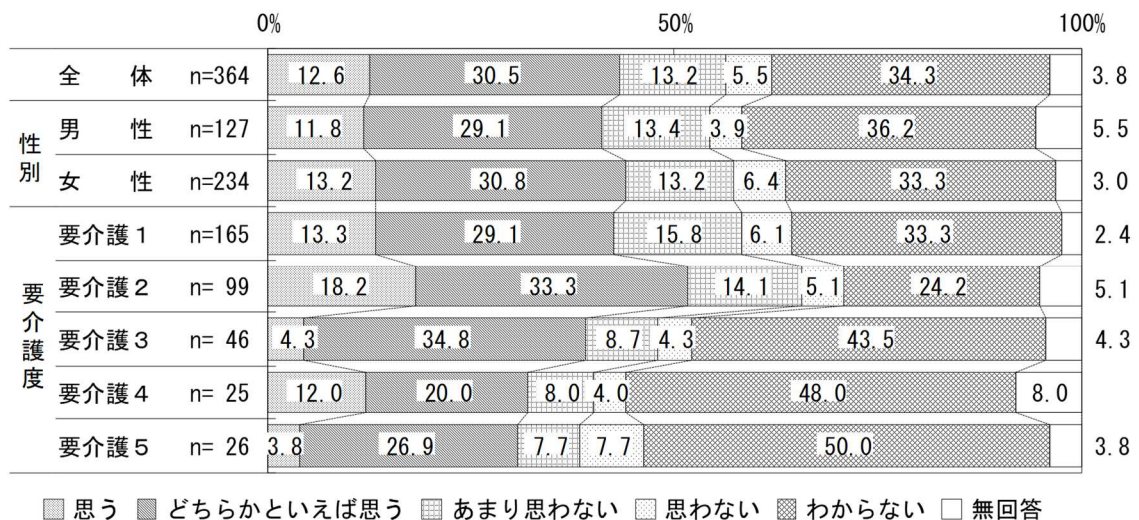


図表53 認知症に対するイメージ



▶「高浜市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちだと思いますか」という設問に対しては、「わからない」が34.3%と最も高くなっていますが、次いで「どちらかといえば思う」が30.5%となっており、「思う」(12.6%) との合計《暮らし続けられると思う》は43.1%で、要介護認定を受けていない人に比べ9.4ポイント高くなっています【図表31参照】。

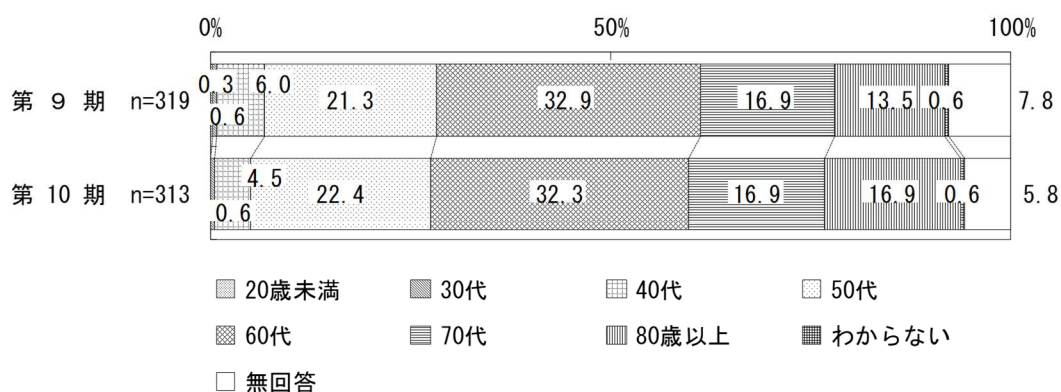
図表54 高浜市は認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けられるまちか



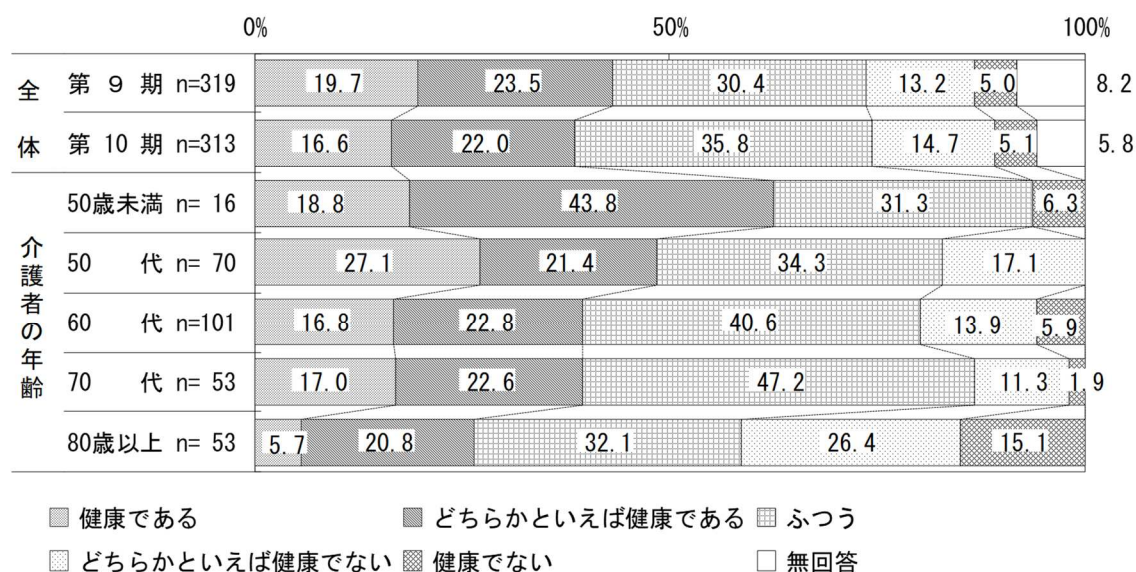
(7) 介護者について

- ▶ 主な介護者の年齢は、「60代」が32.3%と最も高くなっていますが、「70代」および「80歳以上」が16.9%であり、70歳以上が33.8%となります。なお、「20歳未満」および「20代」という回答はありませんでした（図表55）。
- ▶ 主な介護者の健康状態は、「普通」が35.8%を占めていますが、「健康に問題がある」（「どちらかといえば健康でない」＋「健康でない」）は19.8%あります。年齢別にみると、「健康に問題がある」は80歳以上では41.5%を占めます（図表56）。
- ▶ 主な介護者が不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が35.8%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が31.9%、「外出の付き添い、送迎等」が26.8%、「日中の排泄」が24.9%など身体介護にかかる項目が高くなっています（図表57）。

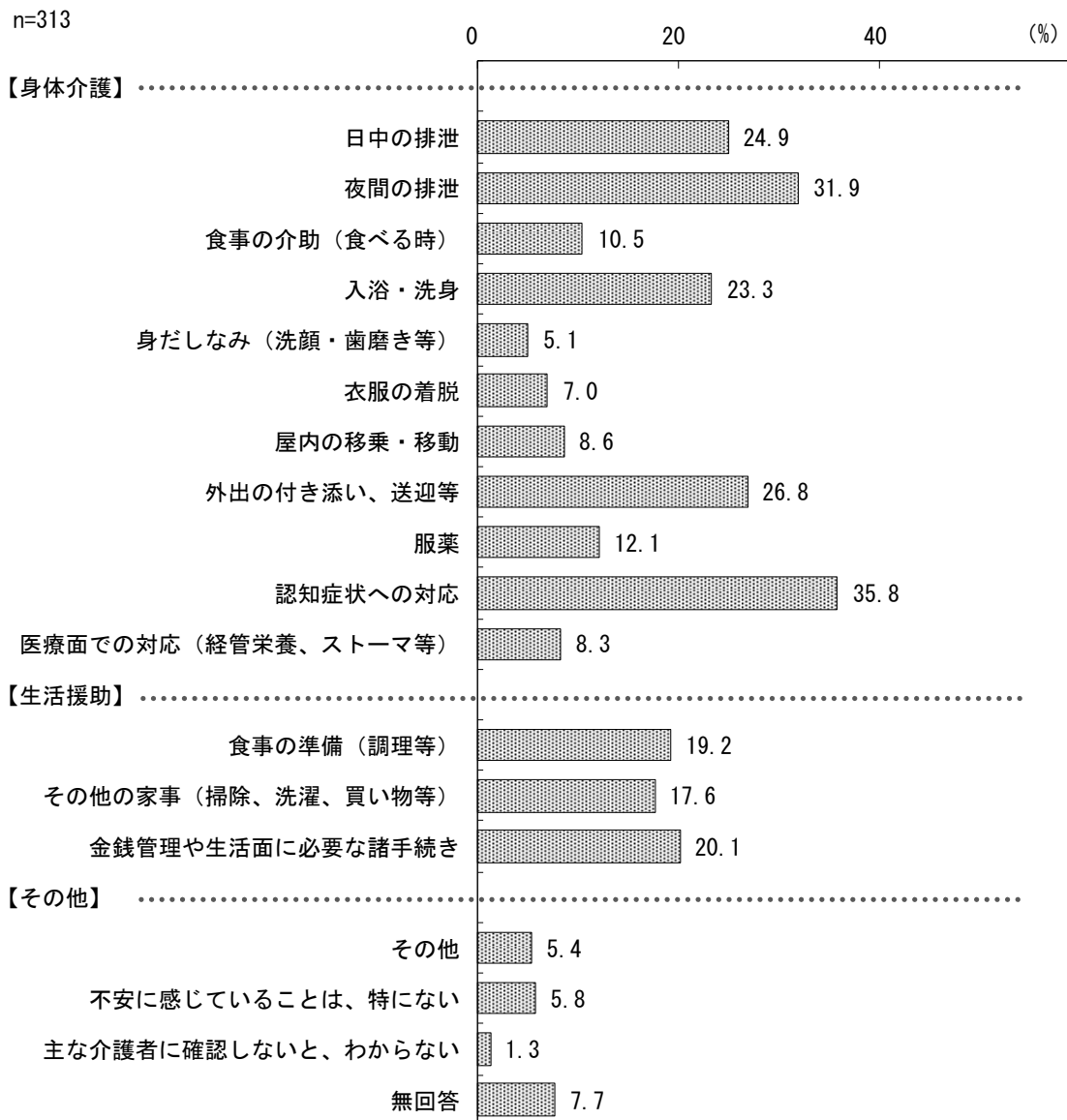
図表55 主な介護者の年齢



図表56 主な介護者の健康状態

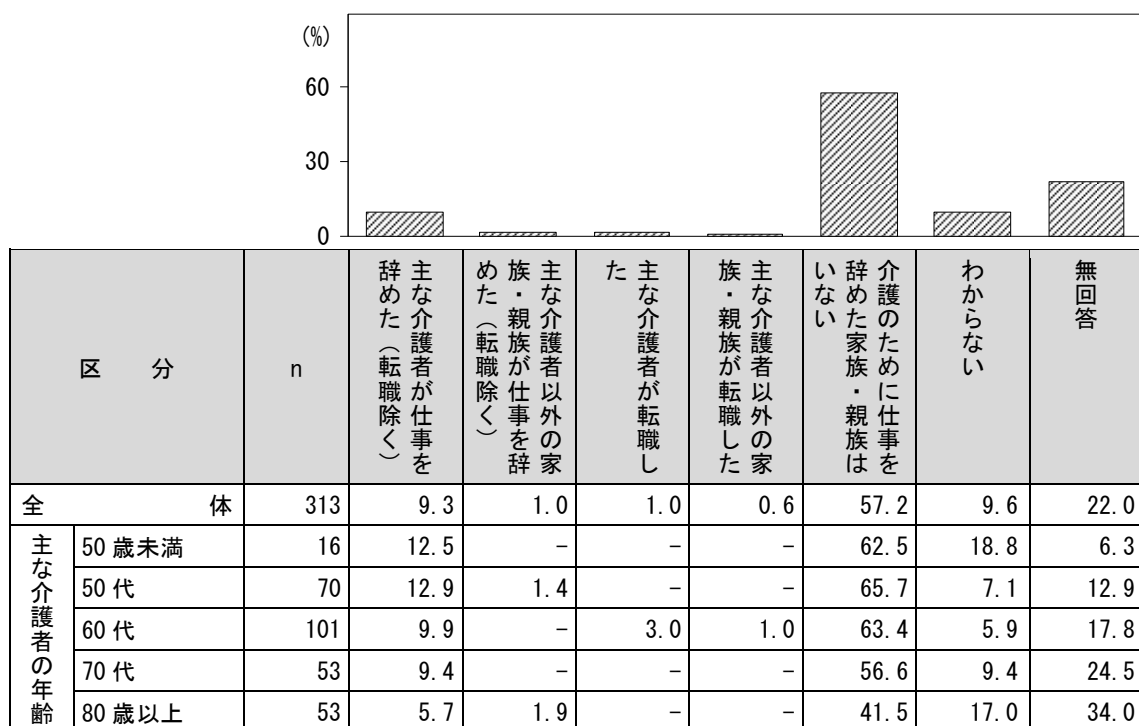


図表 57 主な介護者が不安に感じる介護等(複数回答)

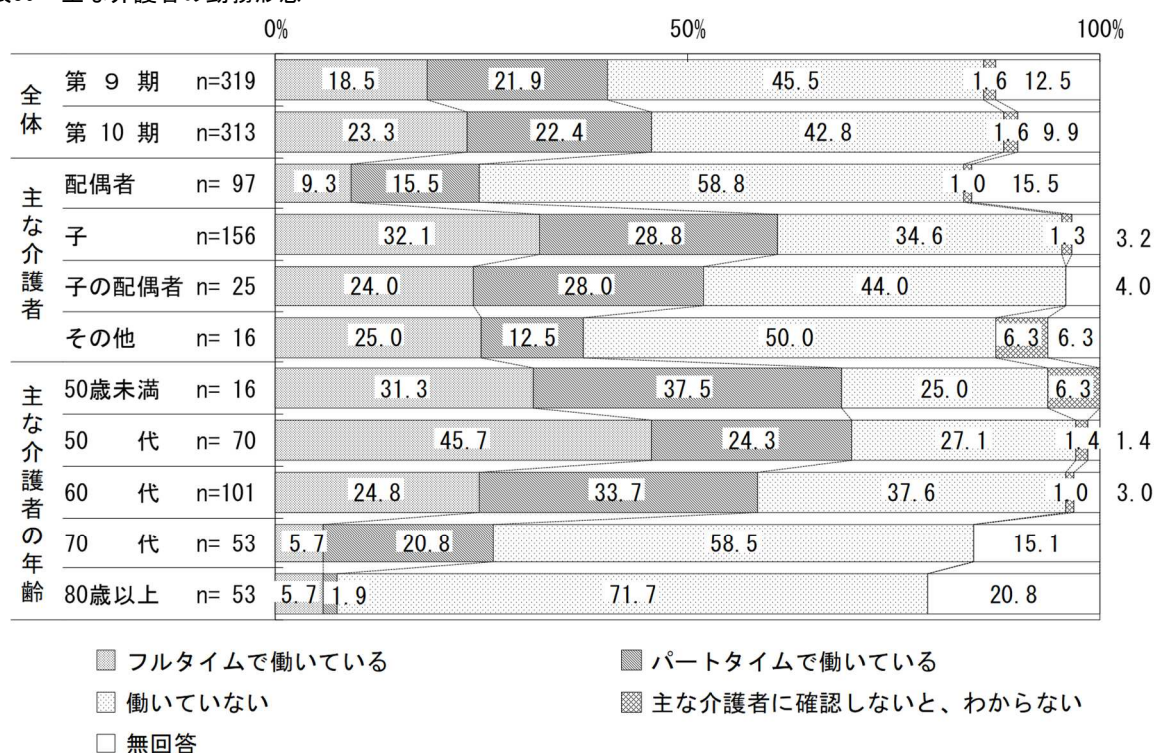


- ▶介護を主な理由として過去1年間に仕事を辞めた人については、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が9.3%、「主な介護者が転職した」が1.0%あります（図表58）。
- ▶主な介護者の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が23.3%、「パートタイムで働いている」が22.4%あり、これらの合計《働いている》は45.7%で、第9期に比べ5ポイント以上上昇しています（図表59）。

図表58 介護を主な理由とした離職（複数回答）

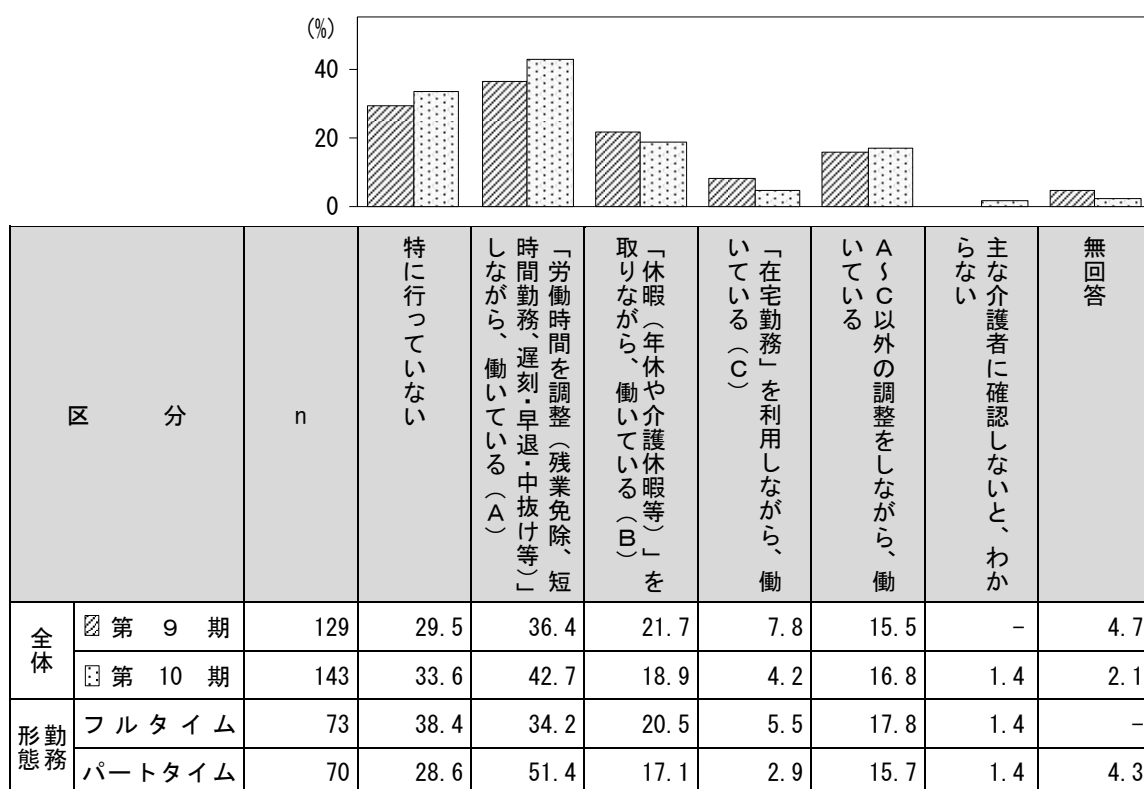


図表59 主な介護者の勤務形態

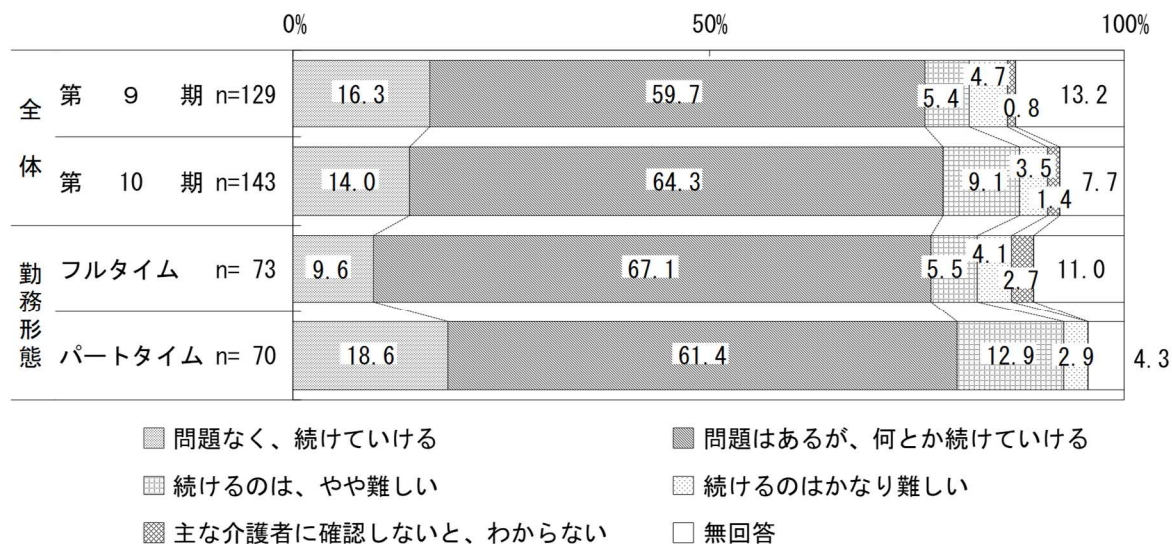


- ▶《働いている》主な介護者が介護のためにしている働き方の調整については、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている（A）」が42.7%と最も高くなっており、第9期に比べ6.3ポイント上昇しています(図表60)。
- ▶仕事と介護の両立については、「問題はあるが、何とか続けていける」が64.3%を占めています。《継続困難》（「続けるのは、やや難しい」+「続けるのはかなり難しい」）は12.6%となり、第9期に比べ2.5ポイント上昇しています（図表61）。

図表60 主な介護者は、介護のために働き方を調整しているか（複数回答）

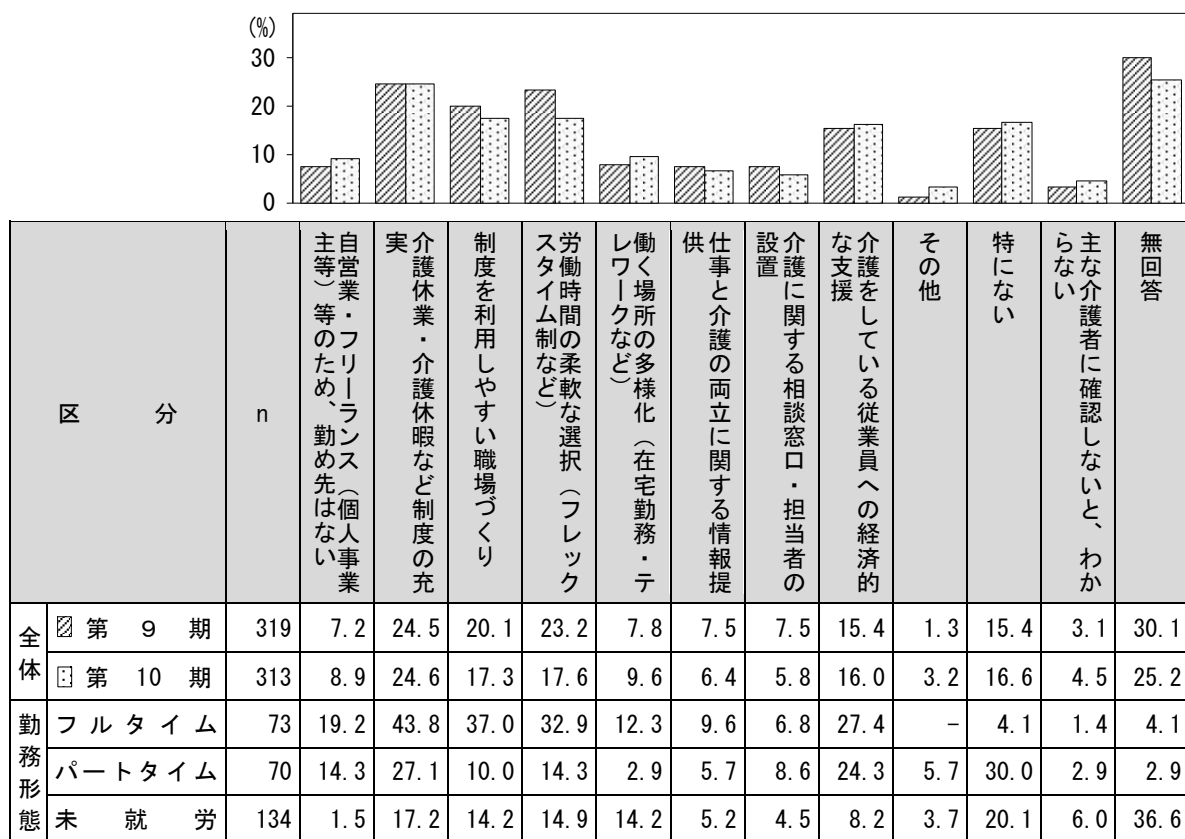


図表61 仕事と介護の両立



▶仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇など制度の充実」が24.6%と最も高くなっています。次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が17.6%、「制度を利用しやすい職場づくり」が17.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が16.0%などとなっています。

図表62 仕事と介護の両立に効果があると思われる支援（複数回答）

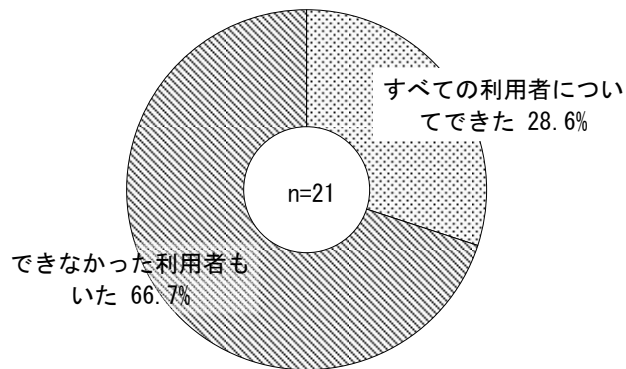


3 介護支援専門員調査

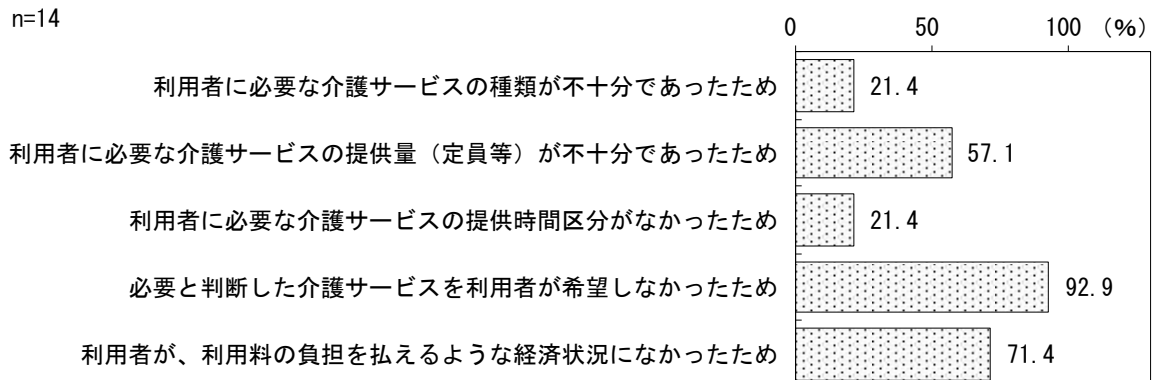
(1) ケアプラン

- ▶利用者の身体や生活等の状況に合ったケアプランを作成できたか否かについて、「できなかった利用者もいた」が66.7%となっています（図表63）。
- ▶できなかった理由として、「必要と判断した介護サービスを利用者が希望しなかったため」が92.9%と最も高くなっています。次いで「利用者が、利用料の負担を払えるような経済状況になかったため」が71.4%、「利用者に必要な介護サービスの提供量（定員等）が不十分であったため」が57.1%などとなっています（図表64）。
- ▶ケアプラン作成にあたり、確保することが困難だった介護サービスとしては、「短期入所生活介護」が42.9%と最も高く、次いで「訪問介護」および「短期入所療養介護」が38.1%などとなっています（図表65）。
- ▶要支援者に対するケアマネジメント（介護予防支援と介護予防ケアマネジメント）のあり方については、「従来どおり地域包括支援センターと居宅介護支援事業所への委託で行うのが良い」が61.9%、「地域包括支援センターの支援により利用者または家族が自己作成するのが良い」が33.3%となっています（図表66）。

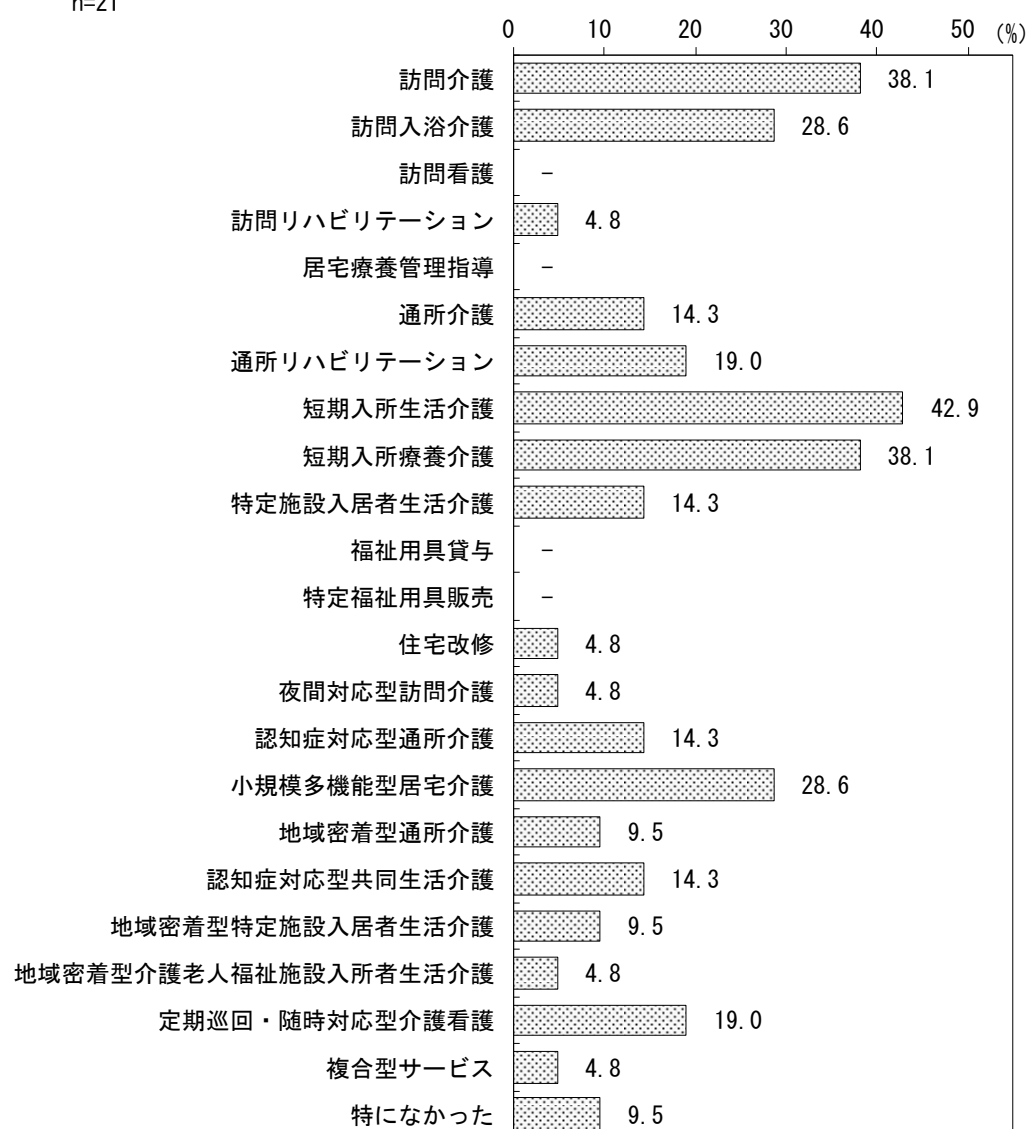
図表63 利用者の状況に合ったケアプランを作成できたか



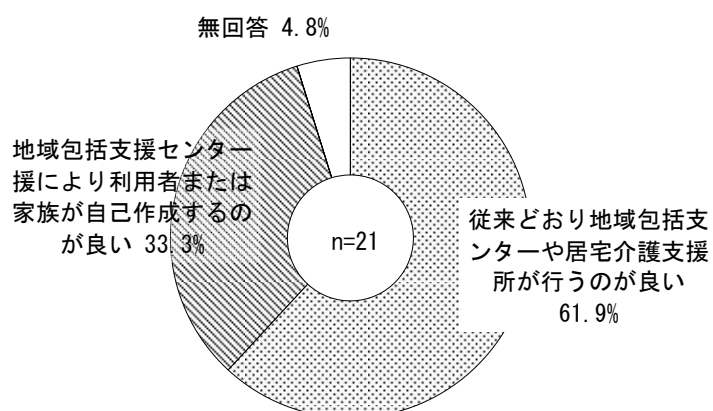
図表64 利用者の状況に合ったケアプランを作成できなかった理由（複数回答）



図表65 確保することが困難だった介護サービス（複数回答）
n=21



図表66 要支援者に対するケアマネジメントのあり方



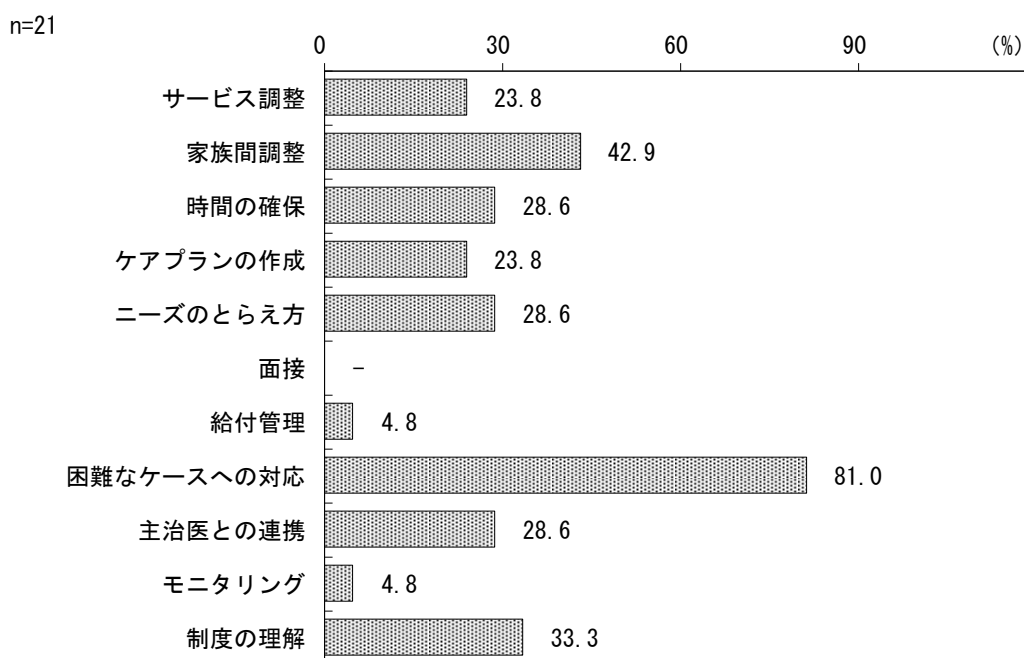
(2) 業務全般

▶介護支援専門員の業務でむずかしいこととしては、「困難なケースへの対応」が81.0%と最も高く、次いで「家族間調整」が42.9%、「制度の理解」が33.3%などとなっています（図表67）。

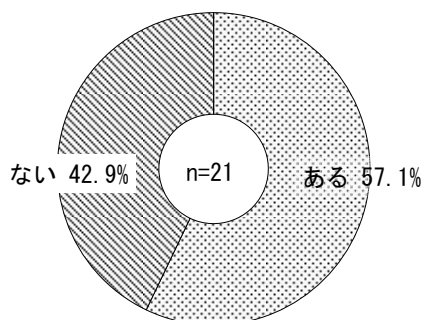
▶この1年間に虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」のは57.1%（12人）です（図表68）。

▶虐待の疑われるケースの合計は22件で、「身体的虐待」が11件、「心理的虐待」が6件、「経済的虐待」および「ネグレクト」が2件、「その他」が1件となっています（図表69）。

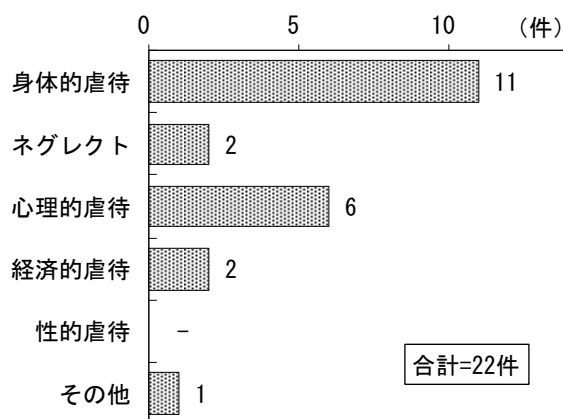
図表67 介護支援専門員の業務でむずかしいこと（複数回答）



図表68 虐待の疑われるケースに関わったこと

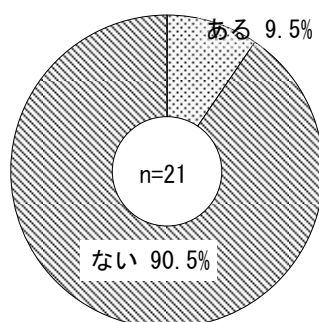


図表69 虐待の分類（複数回答）

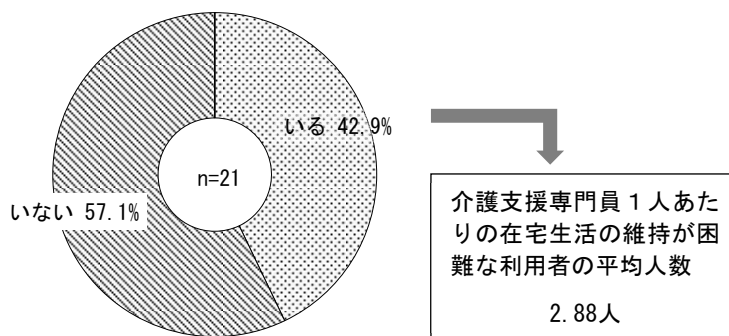


- ▶「担当している利用者と、主に介護しているのが、通学や仕事をしている子ども（ヤングケアラー）であるケースはありますか」とたずねたところ、「ある」が9.5%（2人）ありました（図表70）。
- ▶現在のサービス利用では在宅生活の維持が困難な利用者がいるか否かについて、「いる」と回答した介護支援専門員は42.9%（9人）で、介護支援専門員1人あたりの在宅生活の維持が困難な利用者の平均人数は2.88人です（図表71）。

図表70 主な介護者がヤングケアラーであるケース



図表71 在宅生活の維持が困難な利用者

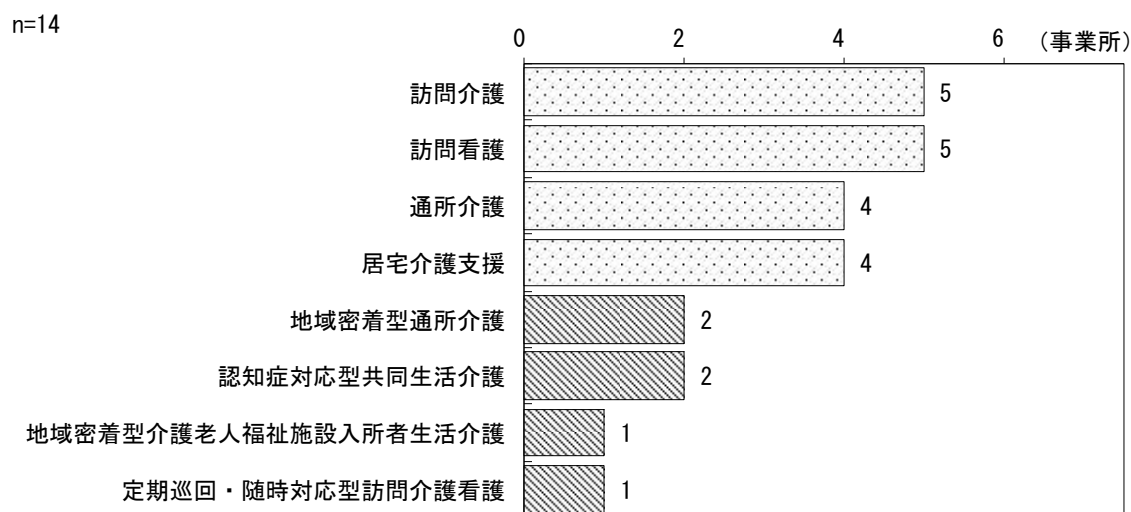


4 介護サービス提供事業者調査

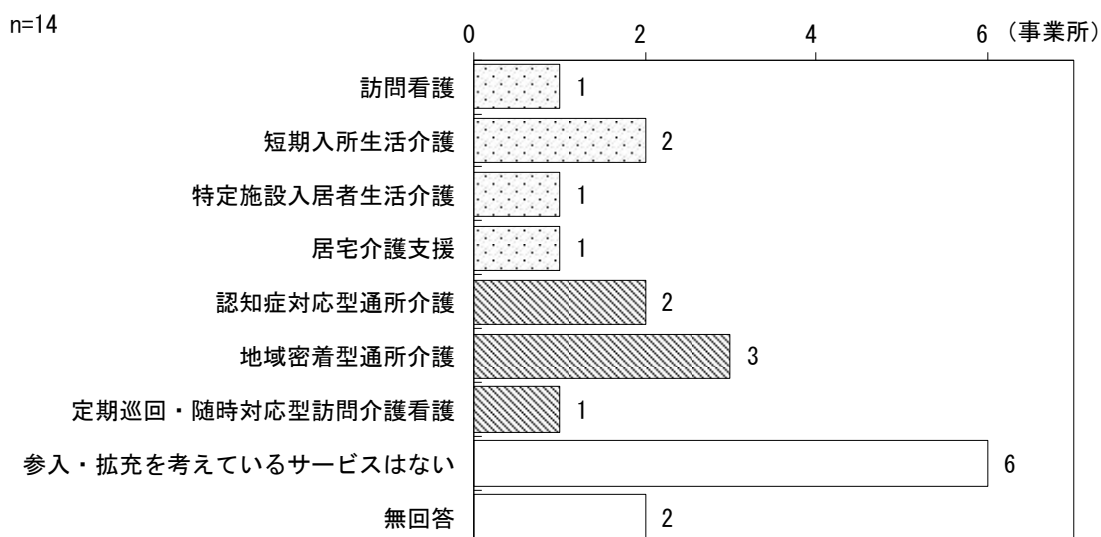
(1) サービス提供

- ▶実施しているサービスは、「訪問介護」および「訪問看護」が各5事業所、「通所介護」および「居宅介護支援」が各4事業所などとなっています（図表72）。
- ▶新規参入又は拡充を考えているサービス種類としては、「地域密着型通所介護」が3事業所、「短期入所生活介護」および「認知症対応型通所介護」が各2事業所、「訪問看護」、「特定施設入居者生活介護」、「居宅介護支援」および「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が各1事業所となっています（図表73）。

図表72 実施しているサービス（複数回答）



図表73 新規参入又は拡充を考えているサービス（複数回答）

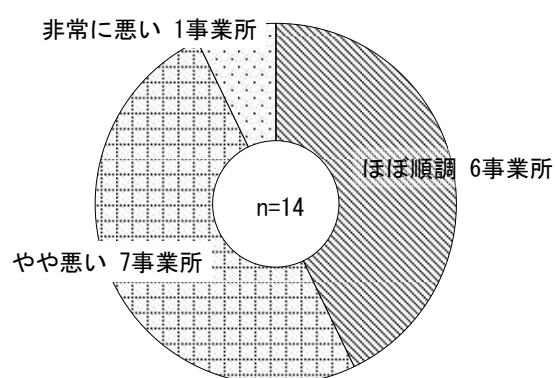


(2) 事業の運営状況

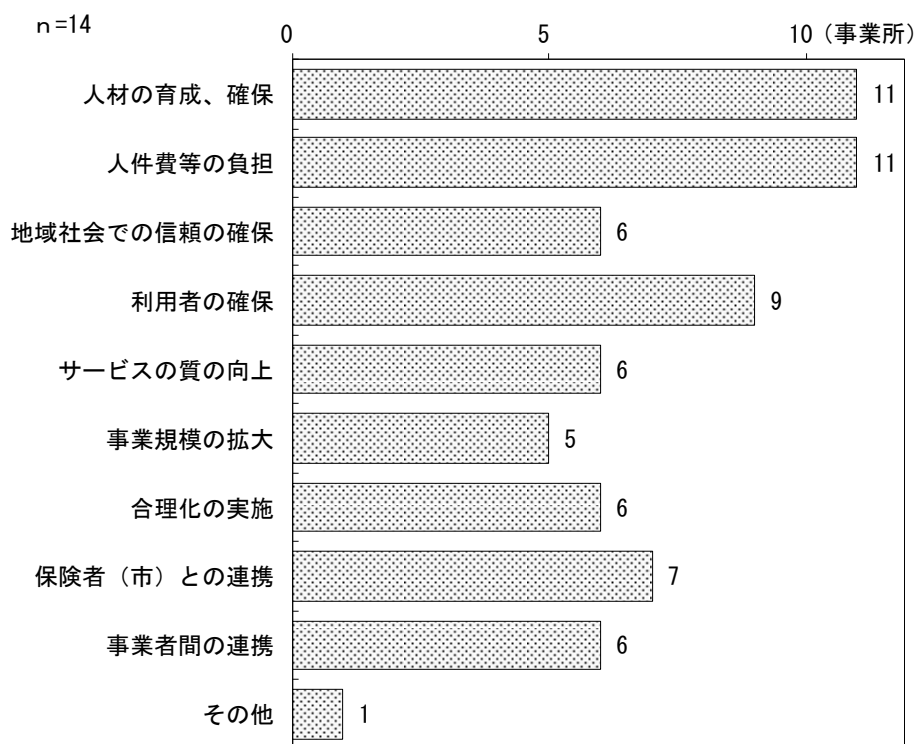
▶事業所の運営（経営）状況は、「やや悪い」が7事業所で最も多く、次いで「ほぼ順調」が6事業所、「非常に悪い」が1事業所となっています。「非常によい」という選択肢が用意されていましたが回答はありませんでした（図表74）。

▶今後、事業を展開していく上での課題としては、「人材の育成、確保」および「人件費等の負担」が11事業所と最も多く、次いで「利用者の確保」が9事業所、「保険者（市）との連携」が7事業所などとなっています（図表75）。

図表74 運営（経営）状況



図表75 課題（複数回答）



第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
のためのアンケート結果報告書《概要版》

発 行 ____ 令和8年3月

発行者 ____ 高浜市役所

福祉部 介護障がいグループ

〒444-1334

愛知県高浜市春日町五丁目165番地 いきいき広場内

TEL:0566-95-9554 FAX:0566-52-7918
